

彼此混シタル上ニテソノ證書ヲ出ストキハ
原告人ハ罰ヲ受ケス尤モ被告人ニテモ
罰ヲ受ケスソノ費用ハ兩持チナリ
親族相訟スル入費ハ勝者負者トモ自分ノ費
文ケハ自カラ拂フトトス尤モ從弟ヨリ出
タル從弟マテ六級ノ親ナリ

第百四十八條

代書人既ニ死スルトキハ書付ケノ寫ヲ
送達セス

代書人退職又ハ死シタルトキハ一方ノ送達

司法省

スルノミ併シ退職又ハ死シタルトキ記ス

七月十日會議

第百十九條 裁判所ヨリ原告及ニ被告ニ其代
書人ヲ出サス自カラ出席ス可キトテ言渡ス時
ハ其出席ス可キ日ヲ言渡書ニ記ス可シ第十
五章ニ記
スル所ト
異ナリ

一一般訴訟ヲナスモノハ本人自カラ裁判所へ
出ルトナシテ代書人ニテ其概略ヲ統括シタル
書付ヲ以テ申立猶委シキトハ代書人ニテ演
舌スルトナリ

司法省

込ノ時ハ書付ヲ以テソノ本人ヲ呼出スナリ
一夫婦ノ財産ヲ分ツ事 夫婦別居ノ事

此ノ二ツハ必ラス裁判官ノ見込ヲ以テ本人ヲ
呼出スナリ之ヲジユジマシフレバラトア
ル預備ノ裁
判言渡ト云フ

本條ハ右等ノ時ニ適當ス

然レ氏本文ノ通りニテハアシ、依テ本文ヲ
改メテ若シ裁判官ニテ雙方ノモノ、出席ヲ
必要ト思量スルトキハ裁判官書付ヲ以テ言
渡シ云々ト書ヤサル可カラス

一 第八十五條ニ本人自カラ拒カント欲セハ自カラ出ルモ若シカラスト云フモノトハ異ナリ

本條ハ裁判官ノ見込ヲ以テ出席ヲ命スルモノナリ

八十八條ニ於テハ代書人ノ言立タルトシ自分ニテ代言人ヲ用ヒス出席シテ辯論スルトモ十人アレハ十人ヲ呼ヒ出モソノ口上ヲ書記ニテ記録スルトナリ

司法省

本人ヲ呼出ス場合ニ於テハ假令裁判官ニテ

一方ノ一柄ハ分カリタルトモ一方ノ事柄分カラサルハ必ラス双方共呼出スナリ裁判官ニテ双方ノ申立ヲ監察スルモノ、如シ

一 確定ノ裁判 訴訟ノ本條 シナス前ニ三ツノ裁判言

渡アリ

一ニハ預備ノ裁判 シテシマンフレハラートアル

二ニハ假リノ裁判 シテシマンプロミスハール

三ニハ預審裁判 シテシマンアンテローロピトハール

此三件ヲ立テタルハ甚都合宜シキトナリ

一 預備ノ裁判ノミニニテハ控訴ヲナスコトヲ得ス
假リノ裁判ト預審ノ裁判ヲナシタル上ハ控
訴ヲナスコトヲ得ル

何ノ為メニ預備ノ裁判ノミニニテ控訴ヲナス
コトヲ得サルトナレハ其時マテハ事柄ヲ一通
リ聞キタルハカリニテ一方ノモノへ害ノ生
スルコトハ未ダ分カラサレハナリ

假リノ裁判預審裁判ニ至リテハ既ニ一方ノ
モノノ害ヲ受クルニ至ル是レ其控訴ヲ許ス所
以ナリ

司法省

此次第百二十條即チ預審裁判ノコトナリ

第百二十條 誓ヲ為スヘキノ言渡書ニハ如何
ナル事件ニ付キ其誓ヲ為スヘキヤリ記ス
可シ

一元來佛ニテハ證據ナキ訴訟ハ取揚ケス併シ
其時ハ誓ヲナサシメ之ヲ取揚裁判スルコトナ
リ

一 誓ニ二ツノ場合アリ一ツハ一方ノ者ヨリ一方ノ
者へ誓ヲ立ラシムルナリ一ツハ裁判官ヨリ
之レヲナサシムルコトナリ

誓ノ一ハ民法證據ノ條

千三百五十二條以下ニ詳カナ

リ此ノ誓ヲ申付ルハ即チ預審裁判ニテ預備ノ裁判ハ此ノ預審裁判中ニ含ミアルナリ

何トナレハ其事柄ヲ審理スルニ預備ヨリ起ラサルヲ得サレハナリ

併シ誓ヲ立テス氏宜シキモノニ裁判官ニテ之ヲ立テシムルヲアル時ハ一方ノモノ、害ヲ生スル故控訴ヲナスヲ得ル

第百二十一條

一此條ハ此ノ處ニアル可カラサルモノナリ之

司法省

レ誓ヲナスノ手續ナリ

原来民法ニ於テ此等ハ證據トナル此等ハ證據ニナラスト法律ノ根原ヲ定メアリ訴訟法ニハ其法律ヲ取扱フ手續ヲ記載セリ第百九十三條以下六條本條ニ類スル取扱ノ一アリ其次ニ之ヲ置クヘシ

餘論

一預審ノ裁判ハ控訴スルヲ廢セリトノ説ヲ聞ケリ如何

一預審裁判ニ於テ控訴ヲ許サレハ大害アリ

何トナレハ一旦預審ニテ定マリタル証據ハ
即チ確定之裁判ノ根元トナル故ニ確定ノ裁判
以前ニ之ヲ防カサルヲ得ス若シ之ヲ防カサ
ル時ハ其者大ニ害ヲ受クルニ至レハナリ

一預審裁判ノ控訴ハ宜シカラストノ論ハマル
ヘシト雖モソレヲ云ハ、訴訟法一部總テ義
論ナキニマラスタトヘバ、兵器アリ曰
ク之レ人ヲ殺サン之レ毀ツヘシト云フカ如
シトノ僅々ノ害ヲ以テ一部ノ訴訟法ヲ誹議
セハ何ワ一人ヲ殺スヲ以テ天下ノ兵器ヲ廢

司法省

ヤントスルニ異ナランヤ

佛ニテ目下預審裁判ノ控訴ヲ許ス第四百七十
三條見合ス可シ

尤モ時ニヨリ間違ニテ預備ノ裁判ヲ控訴ス
ルイザリソノ時ハ其裁判所ノ裁判官ニテ取
揚ケサルナリ

代書人モ法律ヲ知ルモノナリト雖モ時トシ
テ古等ノ間違ヲキテ能ハス裁判官ニ於テハ
容易ニカクノ如キ間違アルイナシ

一法律ニ裁判官ニテ取揚ヘシ取揚ク可カラサ

ル一ハ記載セスト雖モソレ等ハ裁判官ノ見
込ニ任スル故法律ニ掲クルニ及ハス
又人権ニテモ物権ニテモ其訴訟ヲ裁判官ニ
テ承知スルト否ラスト是亦ク其見込ニアル
故ニ之ヲ法律ニ掲ケサルナリ

第百二十二條 裁判所ヨリ裁判言渡ヲ執行フニ
付キ猶預ノ期限ヲ許ス一ヲ得可キ場合ニ於テ
ハ其言渡書ヲ以テ其猶豫ヲ許ス可シ但シ其言
渡書ニ猶預ヲ許スノ趣意ヲ附記ス可シ

一此條ハ從タル裁判言渡ノ一ヲ云フタトハハ
司法省

家賃ヲ拂フ拂ハサルノ一ニ付テハ到底 債
ト云フ一ハ離レサルモノニテ即チ主タル訴
訟ナリ又其家賃ヲ拂ハサルニ付償ヲ訴フ一
アル可シ是レ即チ從タル訴訟ナリ本條ハ其
事ヲ云フナリ

一タトハハ本訴訟千圓ノ金ヲ返スヘキ言渡ヲ
為スニ貧窮ナルモノナル時ハ裁判官ノ見込
ヲ以テ其拂ヒ期限ヲ延ハシ本條ノ手續ヲ以
テ之ヲ言渡ス之レ從タル裁判ナリ

民法千二百四十四條ニ猶預ノ期限ヲ許ス法

律根原アリ此條ニ於テハ其取扱ノ手續シ云
フナリ

一旦言渡シタル裁判ハ決シテ後ヨリ増減ス
ルヲ得サル原則ナルニ付主タル裁判ヲ言渡
シタル翌日ニナリテハ其從タル延期ノ言渡
ヲ為スコトヲ得ス故ニ其主タル裁判言渡ト同
時ニ猶預ノ期限ヲ言渡ス可シ主タル裁判言
渡書中ニ從
ル裁判言渡
書込ムナリ

第百二十三條 其猶預ノ期限ハ原告被告双方
ノ者出席ノ上ニテ裁判ヲ言渡シタル時、其言

司法省

渡ノ日ヨリ之ヲ算ヘ又一方ノ者出席ヲ為サス
シテ言渡シタル時、其言渡書ヲ送達シタル日
ヨリ之ヲ算フ可シ

此條猶預ノ期限ヲ起算スル定メノミナリ

第百二十四條 第百二十五條 第百二十六條

此三條ハ法律ノ根原ニテ訴訟法中ニ置クハ
キモノニ非ス民法千二百四十四條ノ次ニ置
クハキモノナリ

一第百二十二條 第百二十三條ハ期限ノ一
ヲ説キタルモノナリ百二十四條以下三條ハ

期限ヲ許スト許サルトノ一ヲ説キタルモノ
ナリ

一第百二十六條ニ格段ノ場合ニ於テ人ヲ禁錮
シテ負債ヲ取立ル一アリ然レ氏コレハ千八
百六十七年既ニ之ヲ廢シタリ

一尤モ今日モ禁錮シテ取立ルモノハ

○罰金 ○輕重罪ニ付損害ノ償 ○刑事ニ
関スル裁判入費ナリ

一其廢シタルモノハ

○民事 ○商事 ○行政 ○外國人ナリ
司法省

一外國ノ一ニ付テハ一ツノ例アリ

英ヨリ佛ニ來ルモノアリ之レ有名ノ携帶人
ナリ海石ヲ箱ニ入レ金ナリト見セ掛ケテ佛
ノ有名ノ旅店ニ宿スツノ店僕ニ相當ノ金ヲ
與ヘテ曰ク之レ英國ノ美金ナリ大切ニ保護
ヲ頼ムト云フツノ上種々ノ品物ヲ買入ル一
ヲ頼ミツノ代價ハ旅店ヘ代償セシメツノ品
物ヲ受取り爾後何方ヘカ行タルカ知レサル
ニ付ツノ箱ヲ開キ見ルニ全ク海石ナリ依テ
始テ其携帶人ナルヲ知レトモ之ヲ罰スルニ

由ナシ

外國旅人ハ十キモノヲアリトスル類多ク又
飲食等ニ付テモ十圓ノモノヲ食ヒ一圓ヨリ
外所持セサルトモ等澤山アリ因テ外國人ハ之
ヲ禁錮スルトモ其銓ナシ故ニ其禁錮ハ廢シ
タルナリ

第百二十七條 裁判後ハ前條ノ場合ニ於テ禁
錮ノ言渡ノ如ク執行フコト已レノ定メタル時
間猶預ス可キノ言渡ヲ為スコトヲ得可シ但シ其
猶預ノ時間ノ後ニ至リテハ再ヒ言渡ヲ為スコト

司法省

ナク直千ニ之ヲ禁錮ス可シ其猶預ハ訴訟ノ
裁判言渡書ヲ以テ之ヲ許スヘクシテ其言渡
書ニ猶預ヲ許スノ趣意ヲ記ス可シ

一此條ハ訴訟法ノモノナリ

一前條ニ言フ如ク千八百六十七年七月廿六日
ノ法律ニ因テ政府ニ入ル刑事裁判入費ノ一
ニ付テハ禁錮スルコトヲ廢シタリ其後千八百
七十一年十二月廿三日ノ法律ニ於テ後々之
レヲ禁錮スルコトヲ定メタリ

一今日負債ノ為メニ禁錮スルコトヲ廢スル時ハ

前日禁錮セラレタルモノハ盡ク免サ、ルヲ
得ス之レニ及シテ今日ヨリ禁錮ヲナスコトニ
定メタルキハ今日マテ禁錮セラレサルモノ
ハ皆ナ禁錮ス可シ

主タル法律ハタトヒ改正ストモ既往ニ及ホ
スコト能ハスコレハ負債取立テノ取扱ヒニ付
テノ從タル法律ナリ故ニ法律ノ改正トナリ
タルキハ既往ニ及ホスナリ

第百二十八條 一方ノ者ヨリ其相手方ノ債額
ヲ拂フ可キノ言渡書ニハ其額ヲ定メテ之ヲ附

司法省

記ス可シ又ハ相手方ケ條書ヲ以テ其額ヲ定ム
ヘキコトヲ附記スルモ亦可ナリ

一時ニヨリ裁判言渡シニ償フ言渡スコトアリ其
時ハ金額ヲ何百何十圓ト定メテ出サ、ルヲ
得ス

時ニヨリ裁判官ニテソノ額ヲ定ムルコト能ハ
サルコトアリタトハ家ヲ受負ヒテ期限淹滞
スル等ニ付其金額ヲ計ルコト甚ク難シ是等ハ
一日ニ付何程ト定ムルヨリ外ナシ

タトハ家ヲ建ルニ幾分カノ損害ヲ受クル

トアル時ハ裁判官ニテ定ムルト能ハス鑒定
人ニテ之レヲ定メシム

或ハ商買品ノ損害ニ付テハ其物額ヲ定ムル
ト難シ依テ一石ニ付何程一斤ニ付何程ト定
ムルカ如シ

本條ノ旨意ハ償ノ總額ヲ記スルトニテソノ
總額ヲ定メ難キ時ハソノ一ト坪或ハ一斛等
ヲ以テソノ額ヲ定ムヘキトシ云フナリ

第百二十九條 土地ノ收納物ノ償還ス可キ言
渡書ニ最終ノ一年ニ付テハ物品ノ儘ヲ以テ之

司法省

ヲ償還ス可ク其前年ニ付テハ本年ノ豊凶ト其
收納物ノ通價トニ注意シ且其最近ノ地ノ市場
ノ數年間價書ニ從テ其價ヲ償フ可キトシ附記
シ若シ其價書ノアラサル時ハ評價人ノ説ニ循
ヒ之ヲ償フ可キトシ記ス可シ○若シ最終ノ年
ノ收納物ヲ其儘ニテ償還スルト能ハサル時ハ
前年ノ如ク償フ以テ之ヲ償フ可シ

一此條ノ旨意ハ人ノ土地ヲ占有スルトニ付テ
ソノ作徳ヲ取立ルトシ説ク

一占有ニ不正ノ心アルモノアリ不正ノ心ナキ

モノアリ

不正ノ占有ニ付テハ願ヒタルヨリ五年前ノ
收納ヲ取立ツルナリ

不正ニアラサル占有ニ付テハ願ヒタル後ノ
收納犬ヲ取立ツルナリ

本條ニ記シタル如ク最終ノ一年ナレハ其現
品ヲ以テ取立テ以前ノ分ナレハ其年々ノ相
場ニ循ヒ金ヲ以テ取立ルナリ

最終ノ一年トハ昨年ノ一ナリ原書ニハ昨年
トアリ占有ノ一及ヒ其期限ノ一ハ民法ニ原

司法省

律アリ

占有ハ必ラス不正ノミニアラス 虽モ訴訟ニ
就ク以上ハ不正ノ一ト看做サ、ルヲ得ヌ

本〇以下本年ノ訴訟ニ付テ昨年ノ收納葉物
ナレハ賣リテ金トナサ、ルヲ得ヌ故ニ金高
ヲ以テ取立テ現品ヲ取立ツルヲ得ヌ

第百三十條 總テ負訴訟ノ者ハ裁判ノ費用ヲ
拂フ可キノ言渡シ受ク可シ

一此條ヨリ第百三十三條マテハ裁判費用ノ
一ツ云フ

此條ハ其本則ナリ

一 訴訟ヲナスニハ原告人最初ノ不費任リニ
出シ置クナリ其不費ハエケタルモノ、為ニ
カ、リタルモノ改其負ケタルモノニ罰トシ
テ其不費ヲ拂ハレムル誤ナリ
時ニヨリ代書師ニテ原告人ヨリ其不費ヲ最
初ニ受取り置カスレテ訴訟ノ終リタル後ニ
之ヲ受取ルナリソノ時ハ代書人負ケタル
者ヨリ直ニ受取ルヲ得ルナリ

司法省

一 裁判官ハ何々ノ不費ヲ出ス可シト言渡スコテ

ナリ 其現物ヲ取扱フ
ホノナキヲ云フ

一 裁判言渡書ホノ不費ハ書記ニテ受取ル尤
モ之レハ價ノ高々モノナルニ前々ニソノ價
ヲ出サシム

一 使吏ハソノ廉々相對ニテ返リニ訴訟人ナリ
其不費ヲ預カリ置クナリ

ソノ人ヲ知ラサル時ハ必ラス前々ニ其不費
ヲ預カルナリ然ラサレハ時ニヨリ負タル
モノ逃込スルナリ

一 代言人ハ價ヲ定メ取ルナ能ク併ニ窮カレ

取ルモノアリ

代言人ノ謝金ハ十五フヲエクト表ニ見ヘタ
リト虽モ其金実ハ代書師ニテ之ヲ取ルナリ
一裁判官管轄地内ニ出張ノ旅費ハ政府ノ入
費トナル何トナレハ其裁判官ヨリ実ニ聰明ナル
裁判官アラハ出張セストモ分カルモ知ル可カラサ
レハナリ

書記ノ出張ハ必ス裁判官ニ随行スルノ故ニ
裁判官ノ入費ト同シク政府ノ入費トナル
使吏ノ出張ハ全ク訴訟人ノ頼ニカ、ル故ニ

司法省

負訴訟人ノ入費トナル

一本條ノ書法ニテハ裁判費用ヲ拂フハ願ヲナサ
ルニ裁判所ノ方ヨリ言渡ス様ニ聞エレバ
原告願ヒタルエニ言渡サレ、モノニテ願ハサル
モノニ裁判所方ヨリ言渡スニハアラサルナリ
右ノ費ノ一ハ代書人ヨリ出ス書付ニ負ケタ
ルモノニテ費ヲ出ストナラ言渡サレ度者ヲ記
載シアルナリ

一前段ノ如ク負ケタルモノノ費ヲ拂フハ原則ナレ共
其内ニニツノ取除ケナリ

一負ケタルモノモ不費ヲ拂フコトヲ言渡サレ勝テ
タルモノモ不費ヲ拂フコトヲ言渡サル之レ一ツ
ノ取除ナリ

一親族ノ訴訟ハ勝負トモ其費用ヲ双方へ分ケテ
出サレム之レ亦一ツノ取除ナリ

一負ケ方勝ケ方双方共不費ヲ拂フ場合反方トモニ
下座ツ、勝ケタル時ハ双方ノ不費ヲ合セ之ヲ
平分シテ双方ヨリ拂フコトナリ又其一部
或ハ裁部ヲ拂フコトナリ

一佛ニテ親族同ノ訴訟ニ三万フランク餘ノ負ケ

司法省

トナリ其不費八千フランクナリ其不費ヲ三方
フランクノ内ノ組込マントヤレカ行ハレス因
テ之ヲ分ツテ出スコトナリタリ

分ツトハ双方我カ費マレタル丈ケテ銘々償フ
コトナリ

又我カ不費ヲ償ヒタルト相手方ノ不費莫大ナル
トモ其裁部分ヲ拂フコトモナリ

又全ク双方ノ不費ヲ通算シテ平分ニ拂フコ
トモナリ

親族此條ニテハ兄弟マテヲ云ヘリ然レ氏通

例六級マテニ及ナリ

ノ費ノ差引ハ裁判官ニテ見込ヲ付ケテ言渡スナリ

親族間ノ裁判ノ費ヲ銘々ニ拂ハシムル所以
ハ既ニ其訴訟ヲナスハ不和ナリ然ルニ一方負
トナリ更ニ其入費ヲ出サシムルコト更ニ不和ヲ
重タルヲ以テ此法ヲ立テタルナリ

司法省

訴訟法會議筆記

七年七月十日

司法省

七年七月十二日

一前會ニ説メタル裁判入費ノ事ヲ説カニ

右六四ヶ條ニ分カル

第百三十條ハ大要ヲ掲ク

第百三十一條ハ大要ヲ和ラケ模様ヲ付ケタルモノナリ大略ニシテ通りニ分カル

第百三十二條ハ代書師又ハ使吏ニテ我職掌ヲ違ハタルニヨリ原告人ノ害トナリタルニ付入費ヲ出スナラ云ヒタル尤損害ノ償ニ觸ルハナシ

司法省

第百三十三條ハ代書師ノ為メ大イニ便利ナル

ナラ説メタルナリ

右四ヶ條ヲ一ヶ説カシ

一第百三十條ハ公正ノ法律ナリ

タトハハ被告人ニテ抗抵セサレハ早ク済ムハキ訴

訟ヲモ其抗抵スル為メニ長ク時日ヲ費セシ原告

告人ニ害ヲ及ボスナリ又原告人ニテ願ヒ出テス

トモ宜シクナラ願出テ被告人ニ害ヲ掛ルナリ

リ此等ノ時ハ必ス一方ノモノナリ償ハケル可カラ

サルノ理ナリ

原告人ニテ訴訟ヲナス時前拂ナレ置タル金額
ハソノ訴訟ニ負ケタルトモハ元ヨリ損トナリ
且被告人ノ入費ヲモ拂ハサル可カラサルナリ
一 代理人ハ義務ニアラサルナリ必ラスソノ代料ヲ取
ルイトモ送メタルモノニアラス前ニモ説ク通り十五フ
ラシクノ謝金ハ代理人自カラ之ヲ取ラス 代理人ニ於
テハ我レハ
之レ程ノ少クモ料ヲ取ル 代書師ニテ取ルナリ
モノニアラスト謂フ 代書師ニテ取ルナリ
原未代理人ハ十五フラシク位ニテ雇ヒ得ルモノニアラ
ス故ニ相對ニテソノ謝金ヲ送ルナリ
一千八百年代第一世ナホレオン 大変革ノ時ニハ

司法省

空マリタル代理人ナレ 但其人ノ爲カニテ
代言スルコトナリ 其時ハ十五フラ
シクニテ雇ヒ得ルナリ其例今ニ残りタル
ナリ爾後其謝金ノ額ヲ増スホノ論ナレ

餘論

日本ニテ目下代理人ハ此訴訟ニ付負
ケタラハ一錢モ取ラス勝テタラハソノ訴
訟ノ金額ノ一割トカラ取ラセト約ニ
證書ヲ作りテ掛ルモノナリソノ訴訟
ノ勝テタレハ代理人ハ一錢モ渡サス依
テソノ證書ヲ以テ代理人ヨリ訴へ出

ワルトキハ日本ニテハ取揚ケ裁判シテ
宜シキ又ハ宜シカラサルヤ
訴訟ニ付テソノ金額ノ裁割ヲマラント
約スルハ極々惡シキコナリ何トナレハ多
數ノ金額ニテモ一席ニテ済ムコナリ
少數ノ金額ニテモ多サノ時日ヲ費
マスイヤリ故ニ元金額ニヨリテ裁割
トソノ禮金ヲ定ムルコトハ佛ニテハ先年
ヨリ禁スル所コナリ英トテモ同様ト
思フコナリ

司法省

代言人ノ禮金ニ付テノ訴訟ヲ禁シタル
原由ハ萬一代言人ニテ許ハタルトキハ
被告人ニテ必スソノ代言人ヲ我カ意
ヲ貫徹シ得ス又ハ我カ思量セシホド
ノ學者ニテモナカリレナト云フヘシソノ時
代言人ニテ我ハ充分ニテシタリ裁判
官ノ惡シキニハ負ケタリト云ヒ争フ
ソノ為メソノ人ノ面目ヲ失スルニハ禁
レタリ

又勝訴訟ニ付テハ被告人ハ代言人ノヨ

ヨロシキニヤラス我カ證據ノ充分ナル
ヨリ勝チタリナト争フ惣ヘテ後來ノ
面目ニ関スルユヘ禁シタルヤリ
佛ニテハ左モアルヘシ日本ニテソノ訴訟
ヲ取り揚ケテハ道理ニ通セサルヘキセ
惣テ契約ハ皆役ニ立ツモノ、ミニヤラサル
ナリ代言人ノ契約ニナルモノニハヤラス
日本ニテハ裁判官渡シノ節裁判官
ヨリソノ訴訟ノ代言人禮金ハ何程
トソノ訴訟ニヨリ言渡方宜シ

司法省

一日ニ付々何程ト定メタラハ暫時ニテ濟
ムコラモ長ク言フ可シ代言人ノ便利ナレ
トモ裁判官ノ甚不便利ナリ故ニ一日ニ付
何程トハ定メ難シ
元来佛ノ法宜シカラス右ニ付數説アレ氏
先ツニタ通りヲ説カレ
今ノ佛ノ法ハ十五フラニクト定モリテ又之
レヲ取ラス更ニ訴フルフ能ハス餘リニ不
都合ナルユヘ五十フラニクト定メント云フ
説アレ氏五十フラニクニ至ラサル事件モ

ヨリ又五十フランクニ越スル事件モアル可
シ不相当ナリ故ニソノ勞ニヨリテ定ムル方
宜シ
元來訴訟難易結局ノ料リ知ル可カラズ是レヲ
料リテ前ニ定ムルニハ必ラス多數ヲ要スルモ
ナリ
訴訟ヲナスニ付キ稍ク代言人ヲ見付ケ
タリソノ代言人トナル可キモノニテ元金額
ノ五割ヲ出セト云フソノ時ハ之レヲホノル
キ又ハ類マサルヲ得ス

司法省

最モ宜シキ趣向ハソノ裁判官ニテ推ラ
持ツ方ナリソノ訴訟何程ノ難易アリ何
程ノ時日ヲ費ヤシ何程ノ勞ヤリト見
積リテ言渡ストキハ代言人ニテ何程
出セト云フコト能ハス
ソノ裁判所ノ特權ニテ控訴スルコトヲ許サ
ル方ナリタトヒ控訴スルトモソノ上ノ裁
判所ニテハ願末ノ分カラサルコトナレバナリ
尤モ代言人ノ勝チタル者ト負ケタルトハ
區別セサル可カラサルナリ

又ワノ貧富ヲモ察セサル可カラサルヤリ
之レヲ問フ所以ハ外國人ニテ多分ノ代言
料ヲ書キ出ス者アルニハナリ

ソレハ相当ノ所ロニ定メサル可カラス佛
人ナラハ佛ニハソノ法律ナシト言フ可レ英
ナラハ英ノ領事ハ誅シ相当ニ定ム可レ
先方ノ求メノ相当ナルトモハ之レヲ遣ル方ヨ
ロシ

佛人ハハ代言人ノ料トテハ遣ル可カラス損
害ノ償トシテ遣ル可レ佛ニモソノヨクナルトア

司法省

リ

尤日本ニテハ未タ代言人ノ局トテハナシ

千八百三十八年四月十一日ノ法律ニ首
タル訴訟ニヨリテ損害ノ償ヲ要ムルトハ
金高ニ拘ハラス終審ヲナストテ得ルト
定メタリ

何トテモ控訴ヲナストテ得ルトモハ終
亂窮ナリナシ故ニ金高ニ拘ハラス之レ
ヲ終審スルトテ得

千二百フランク訴訟ヲ終審スルニソノ

損害千五百フランクナリト云ヒテ控訴
スルコトニナル故ニソノ損害ノ償ハ終審ヲ
ナス

併シ事ニヨリ人ヨリ傷ヲ受ケタルニ付テ
控訴スル等ハ之レヲ許ス

千二百フランクノ訴訟ハ一旦終審ヲナシタ
ルモノナリ

傷ヲ受ケタルハ事柄ヨリ起リタルモノ
ナレバナリ

此法律アルニテ代理人ノ訴ハ取揚ケサル
司法省

ナリ

代理人ニ遣ルト云フコトハ法律ニ立テヨト云
フコトニハアラサルナリ

大意裁判官ニテ特權ヲ以テ見積リテ言
渡シ控訴ヲ許サストヤス方宜シ

ソノ高ヲ極メルハ○出席幾日○金高何
程ノ事件ノ難易○法律ニ對シタル難
易○代理人ノ勞

此五ヶ條ヲ以テ立ル方

佛人ノ為メナラバ此ノ如ク言フ可シ

代 言 人 ノ 料 ハ 遣 ル 一 ラ 得 ス 君 カ 國 ニ
於 テ モ 法 律 ニ 於 テ 訴 訟 ラ 許 サ ス 相
当 ノ モ ノ ナ ラ バ 損 害 ノ 償 ト レ テ 差 出 ス ハ
レ ト 云 フ 可 シ

第 百 三 十 一 條

第 百 三 十 條 ニ 對 シ ニ ツ ノ 和 ラ ケ ア リ 第 一
ノ 一 ハ 親 族 訴 訟 ラ ナ ス 既 ニ 第 一 ノ 不
和 ラ 生 ス ソ ノ 入 費 ニ 付 ヲ 第 二 ノ 不 和
ヲ 生 セ サ ル 為 ニ 銘 々 ニ 拂 フ 可 シ ト 言 渡
ス

司 法 省

佛 ニ チ ハ ツ ノ 訴 訟 ノ 書 付 ケ ラ 作 ル ニ 自
多 數 ノ 金 ラ 要 ス 故 ニ 一 方 ヨ リ モ 何
程 カ 出 ス ハ レ ト 言 渡 ス

一 體 本 文 ニ ラ バ 我 カ 遣 ヒ タ ル 入 費 ハ 我
カ 拂 フ コト ナリ 併 シ 一 方 ノ モ ノ 一 君 ヨ リ
モ シ レ ヲ 拂 フ 可 シ ト 裁 判 官 ノ 見 込
ヲ 以 テ 言 渡 ス ナリ
コ ン パ ン セ イ

箕 譯 消 殺

原 語 ノ 意 ハ 差 引 勘 定 ト 云 フ コト ナリ

本文ヲ此ノ如ク書ク可シ

若シ親族互ニ訴訟ヲナスレタルトモハソノ入費ハ各自ノ費用タル可シ

第二項ハ真ノ差引勘定ナリ双方トモ一ケ條ツ、勝チタルトモハソノ入費ハ真

ノ差引勘定ナリトモ氏ソノ高カラ見ルイ甚タ難シ

タトハハ千圓ノ訴訟ヲナスニ甲ニテハ五百圓ノ勝チヲナス乙ニテモ五百圓ノ勝チヲナストモ甲ニテハ六十ヲラシクテ出シ置キ

司法省

乙ニテハ四十ヲラシクテ出シ置キタルハ十ヲラシクテ甲ニ渡ス等ナリ

タトハハ家ト地所ヲ要ムル訴訟ニ付メラハソノ高分カラスソノ時ハ監定人ヲ用ユ

ソノ監定人ニテソノ入費ヲ甚タ多クスル等アリ不都合ナリソノ時ハ裁判官ニテ

見積ルヤリ

若シ双方トモ勝チタルトモハ三ツアリ

第一ノ訴訟ノ勝高

第二ノ入費ノ高

第三前ニ出シ置キタル金高

之レヲ見極ムルハ肝要ナリ

タトハハ三分ノ二勝チタルモノハソノ入費ハ

三分ノ一ヲ拂ヒテ宜シ

第百三十二條

大意ハ自分ノ職務外ノイヲ為レタラハ

裁判入費ハ勿論ソノ損害モテヲ拂ハシ

ムルイナリ

タトハハ自分ノ職務ハ敬ス可キヲ使

吏ニテ怠タリプレクスプリクシヨシノ期限

司法省

ヲ過クル等之レナリ

民法千三百七十二條ニナリ

誰レニテモ人ノ損害ヲナシタルモノハソノ償

ヲ出ササル可カラストアル原則ヨリ出ワル

ナリ

此條ハ代書師ノ便利ナル條ニハアラス

併第百三十三條ニハ代書師ノ便利ナル

イヲ云ヒタリ

訴訟ヲナスニ代書師ヲソノ入費ヲ仮

リ受取ヲナスス惣テ立替テ置クイナリ

得意ノ為ニハ間々為スナリ
ソノ立替金ヲ為シタル上勝テタルトモ負
ケタルモノヨリ請取ルハ當然ナリ然ルニソ
ノモノハ勝テタルモノハ渡シタリソノトモ勝テ
タルモノ分散トナリタリソレニ付外債主ト平均
ヲ承ケサルヲ得スソレニテハ氣ノ毒ナルニ付ソ
憂ナク為メニ負ケ訴訟ノモノヨリ勝テ許
訟ノ手ヲ經スレテ直チニ之ヲ代書師ハ
受取ルナリ定メタリ

司法省

ノ手ヲ經スレテ直チニ金額ヲ取レハナリ
アレウレージニ於テ氣ヲ付ケサルハカラス
ソノ頼ユレタルモノニ對スルニアラサレハアレウ
レージノ特權ヲ持セサルナリ
何トナレハソノ頼ユレタル人ノ為メニ勤メ
且ツ前金コテラ出シテ居ルユハナリ之レハ
勝テ訴訟ノモノニ對スルニナリ負ケ訴訟
ノナリ於テハアレウレージノ特權ナレ何トナ
レハソノ人ノ為メニ勤メラ為シテ居ラサル
ナリ

金ニ於テハ一ト度ニ分散人ノ手ニ入レハプレウ
レニシテ特權ハ無クナルナリ之レハツノ金ヲ
押ヘテ分散人ノ手ニ入レサルト同シナリ

第百三十三條

此條ハ即チ言フ所ノ代書師ノ立替タル
金ハ別ニナシ置クコトヲ言フ元トヨリ代書師
先キニ金ヲ出シ置カサレハ何事モナシ
右ハ裁判言渡ノハ一曰ニ右ノ言渡ヲナス
可シトナリ

司法省

但シ此場合ニ於テハ其代書師自己ノ名
目ニテ云々本文ノ通りナリ若シ負ケタルモ
ノニテ出スコトヲ得サルトモハ本人ニ對シ許フ
ルコトヲ得ルナリ

第百三十四條

此條ハ此所ニアラサルモ可ナリ夫婦別
居ノトモ養育料ノコトニ付キソノ訴訟
ヲニツトモ裁判シ得可キトモハ一同ニナ
ス何トナレハニツニナセハソノ入費モ從ツテ
多ケレバナリ

百十八條十九條ノ次ニアル方ナリ

第百三十五條ヨリ第百三十七條ニテハ肝
要ナリ

之レハ控訴ノ所ロニアリテモ苦レカラス依
テ今日讀ミ切レヌハ控訴ノ所ロニテ讀ム
可シ

控訴ト云フハ裁判執行ノ中止ト云フナリ
何トナレハ控訴ニナレハソノ裁判執行ヲ中
止シテ居ルナリ併シ取除ケヤリ何トナレハ直
チニ執行セサル可カラサルコトハ直チニ執行ス
之レ取除ケナリ

司法省

控訴ハアレモ假リニ執行ハレハ即チ假リ
ノ執行ナリ

假リノ執行ハ時ニヨリ替ルコトアレモ先ツニツ
ノ道理アリ

第一ノコトハソノ訴訟ニ付テ到底裁判ハ替
ルコトハアルモレトノ目的ノ立チタルトキハ假リニ
執行ス

第二ニハ至急ノコトニ付テハ万一替ルコトハ有ルモ
知ル可カラスト虽モ事柄ノ至急ナルニ付テ
先ツ假リニ執行ス

第一ノ場合ニ於テ大畧替ラストトモ假リニ
執行ヲ命ジ第二ノ場合ニ於テ急ニ執行ス
ルト虽モ若シソノ裁判ノ後ニ替ルトモハ假
リノ執行ニヨリテ得タルモノヲ返サシメソノ
損害ノ償ヲモ出サシム之レニ反シ控訴ヲナシ
タリトモソノ裁判ノ替ラサルトモハ氣ノ毒
ナリ故ニ假リニ執行セシムルヤリ

第一ノ道理ノ場合ニ於テ大概替ラサルトノ
目的アルトモハ証人ヲ立テシメス

第二ノ道理ノ場合ニ於テハ証人ヲ立テシムル
司法省

ト否ラサルトハ裁判官ノ見込ニヤリ
之レ義務ニハアラスヤリ

何ノ為メニ此ノ如クスルトナルニ不正ノ心ヨリ執
行ヲ延バス為メニ控訴ヲナスモノヤリ夜ラ
ニ歲月ヲ異ス故ニ此法ヲ立テタルヤリ
此條々ノ大意ナリ

第百三十五條
證金ヲ出サシメテ済ムトモニツヤリ

○公正ノ證書。一方ノ者ノ許認シタル約束
書。裁判言渡ヲ受ケテ控訴セサルトモノ

負ケ者ニテソノ裁判ノ惡シキト云テ之レヲ
執行セソノ時ハソノ執行書ニ付ケテ以テ
裁判所へ訴フソノ由ハ裁判所ニテ假リニ
執行ハレム

裁判ニ不服ナルトモハ控訴ヲナス可キニ控
訴ヲ為サス裁判書ニ付ケニ對シテ苦情
ヲ言フトモ事ナリ

当然ナラバ控訴ヲナスニ依リ待ツ可レト云フ
可キソノ申命ニ對シテ苦情ヲ言フトモハ
控訴ノ期限ハナル可ケレトモ先ツ假リノ執行

司法省

ヲナス可レト裁判官ヨリ言渡スナリ以上
三ツノ場合ニ於テハ假リニ執行ヲナレタル
上控訴ヲナレタリ凡替ル憂ハナキモノナ
リ

此條ニ於テハ保証人ナクシテトヤリ裁判
ノ權ニテ押付ル姿ナルナリ

急キノ場合ニ於テハ保証人ヲ立テスレテ
言渡スイモヤリ又ハ立ツルイモアルナリ

左ノ件々ハ至急ノ場合ニテ全ク裁判官
ノ見込ニテ為スナリ

左ノ件々ハ本文ノ通りナリ

願ヒ出テタルモノ、身代宜シカラサルトモハ保証人ヲ立テ身代宜シクシテ金ノ差支ナキト思フトモハ立テス

件々ハ一々説カストモ分カリ居ルナリ
第百三十六條

養料

此條ハ一トタヒ裁判ヲナシタル上六カフルトモ減スルトモナラサルノ原則ヨリ出ツ併シ若シ原被告ノモノ控訴ヲナシタル上

司法省

控訴廳ヨリ假リニソノ執行ヲ言渡スナラ得ルナリ

第百三十七條

裁判入費ノナニ付テハ假リノ執行ハセシメス之レハ至急ノトニバアラサレハナリ

若シ控訴ノアルトモハソノ滞トモテハ待タサルヲ得ス

出席裁判言渡シハ之レニテ滞トナリ

後會ハ第八章第百四十九條欠席

裁判及ヒ故障ノトニツク可也

訴訟法會議筆記

十一月三十日

司法部

七年二月三十日

訴訟ヲ為ス最中ニ原告人ニテ被告人ノ財産ヲ
按カサントノ憂アルトキハ之レヲ裁判所へ願
ヒ差押ユルコトハ出来ヘキヤ
一時ノ差押ハ出来ルナリ
ソノ時ハ原告人ニテ証拠金ヲ出スヘキヤ
出スニ及ハス之レハ裁判所ニテ相当ト見込マ
サレハ之レヲ許サス且ツ勤カサハル迄ニテ財
産ハ被告人ノ手ニアルナリ
ソノ時ハソノ財産ヲ取調フヘキヤ

司法省

之レハ原告人ヨリ裁判長官へ願出タルトキ長
官ニテ被告人へ通シ長官評議席ニテ之レヲ取
調ヘ差押ヲナス
ソノ時ハ原告人ト一同ニ取調フヘキヤ
尤モ双方一同ニ為ス位ニ本人ハ行カス代書人
テ之レヲ為ス

ソノ手ツ、キハ法律ニ書イテアリヤ
訴訟法中ニソノ綱領ヲ挙ケタリ

第五百五十七條第五百五十八條ヲ見ルヘシ尤
モ本文明瞭ナラス法律ノ申明ヲ以テ補足スル

ナリ

リノ一時ノ差押ハソノ財産ヲ賣却スルニアラ
ス万一之レヲ賣ルトキハ証拠金ヲ出サ、ルチ
得サルヘシ

裁判後ノ取押ハ執行ニ付テノ取押ナリ
一時ノ差押ハ財産ヲ保全スル為メナリ

第八章

抗徳並ニ故障

第四百十九條

原被双方出席ヲ為シ被告人ニテ已レノ意ヲ述
ハタル後ニ裁判ヲ為スチ

司法省

シゴジマシコンタラリユクトアール

双方出席ノ裁判

之レハ双方共已レノ意ヲ述ハ戦ヒタル後ニ裁
判スルト云フ意ナリ

双方已レノ意ヲ述ハタル後ニ裁判スルト云ハ
ハ分明ナリ併シ佛ニテ左ハ云ハス即チ双方戦
ヒ争ヒタル後ニ裁判スルト云フナリ

佛国ノ法律語ニ不都合又ハ不当ノ語アリウハ
シエーナトハ甚タ当テサル語ナリ故ニ日本ニテ
法律語ヲ定メント欲セバ相当セル語ヲ撰ムハ

シ
ウエシエハ門ヲ守ルト云フ義ナリ
然ルニ決シテ門ヲ守ルモノニテラス一体ウエ
シエハ裁判所ノ門番ナリ
而後追々肝要ノ職務ヲ掌ルコトナリタリ任
名ハ旧名ヲ存セシナリ

佛ノ各省等ニ必ラスウエシエナルモノナリ局
々入口ノ番ヲ為ス之レハ相当ノ名ナリ
第一ニ相当ノ語ハ双方争ヒノ終リタル後裁判
スルト為ス方ヨロシ原語シユシヤンテバチウー

司法省

又席裁判ノ語ハ相当セリ

シユシユニバールデホー
呼出ヲ欠ク

又席ト云フ事ニシテニツノ區別アリ

第一ニハ代書人ヲ立テサル事

第二ニハ代書人ヲ立ツルトモ見込書ヲ以タサ

ル事
見込書

第三ノモノハ呼出テ受ケテハ居ルナリ

コシクリシヨシハ原告人ハ手續書又道理ヲ

書メ之レニ仍ツテケ様々ニ被告人ヲ罰シテ

被下ト云フ書々付ケナリ

又被告人ヨリハケ様々々ノ手續道理ナレハ此
訴訟ハ御取エケヤク訴訟入費ハ原告ヨリ差出
ス様御達レ被下度ト云書々付ケナリ
即チ裁判ノ雛形ナリ

此書付ケラ出セハ直ニ裁判ヲナスナリ
タトヘハ被告人ノ出席セシトキ法ニ從ワテ原
告ニテ裁判取ヘ出コンクリレヨシヲ讀ミ上ケ
ルナリソノトキ被告人居ラサルユヘ裁判官ハ
原告人ノコンクリレヨシノ通りニ裁判ヲナス

司法省

百四十九條ハ六ケ敷ナレ被告人ニテ代書師
ヲ任スルナリ

又任シタリトモ本日出席セサルトキハ其々ニ
ニテ裁判ヲナス

デホー
欠ク

原語此ノ如シ仍テ抗傳ト云フヨリハ欠席ト云
フ方ヨロシ

代書師ヲ立テス代書師出席セス抗スルノ模様
意味アリ任裁判官ノ言渡シハ欠席ナリト云フナリ

第百五十條ニ云フ如ク使吏被告人代書師ノ姓名ヲ讀ミ上ケタル上之レヲ為ストアレトモ佛ノ裁判所ニテ文レ等ノ手ツ、又ハ為サズ欠席スレハ直チニ裁判ヲ言渡スナリ

然レモ裁判役ハ云々其證書類ヲ書記局ニ出スヘキ云々アレモ之レヲ為シタルトハ絶テ無之任シナカラコソナリシヨシニ法律ニ違フタル不都合ナルトアレハ其違フタル丈ケノ事ヲステ、裁判ヲ為ス譬ヘハ五分六分ノ利息ヲ八分九分ニ書キタルトモハ五分トカ六分トカニ定

司法省

メテ裁判ス

欠席ニニク通りアリ代書師ヲ立テサルトト代書師ノ出席セサルトハナリ

第一ノ代書師ヲ立テサルモノハ時ニヨリ呼出状ノ違セサルモノアリ

第二ノ代書師出席セサルモノハ呼出ヲ受ケテアレトモ書付ケヲ出ストラ欲セサルナリ

故ニ故障ヲ述フルニ付テハ第一ノ方ニ最モ意ヲ注スヘシ其意ニ注スヘキトテ説カントス

此所ハ被告人數人アリ又ハ數人連帶シテ負債

主トナリタルトモ一人ハ東京中ニ居リ其他ノ
人ハ近在ニ居ル各々裁判所ノ距離違フトモ東
京ニ居ルモノ、出席スル日ニ出席スルトモ
欠席裁判ハ為サズ近在ニ居ルモノ、出席ス
キ日ニ欠席シタル日ニ欠席裁判ヲ為ス
一人ハ東京ニヤリ一人ハ大坂ニヤルトモ一人
東京裁判所ヲ撰ミタルトモハ其一人ノ大坂ニ
居ルモノ、東京ハ出ルマテ待タサルヲ得ス
第百五十二條ハ入費ノカ、ラサル為メ裁判言
渡書ヲ一枚ニテ済マズ事ナリ然レモ若シ數枚

司法省

ノ言渡ヲ作りタル時ハ代書師ニテ其費用ヲ拂
フ可キト云フナリ
欠席裁判ヲ被告人數人アリトモ其言渡書ハ一
枚ト為ス規則ナリ万一一人毎ニ言渡書ヲ取ル
トモハ之レハ代書師ノ好ミナルヲ以テ其一枚
ノ外ノ入費ハ取ル事ヲ得ス
時ニヨリ裁判官ニテ之レハ一枚ニテ宜レカル
ヘシト云フナリ其時ニ代書師ハ數枚ヲ乞フ
ナリ其時ノナリ

第百五十三條

被告人二人アリ一人ハ出席シ一人ハ欠席スル
ニ一人ハ欠席裁判ヲ受ケ一人ハ出席裁判ヲ為
ス其時一人ハ勝チタリ

一體尙人ハ欠席裁判ヲ受ケ一人ハ勝ツトハ之
レ全ク無キノ理ナリ

此不都合ヲ避ル為メニハ尙人ノ出席シタル人
ノ訴ヲ聽ク其云フ所口道理アレハ勝チトナル
其尙人勝チタル上ハ其欠席シタル人マテモ勝
チトナル

司法省

此ノ如尙人出席シタル為メニ欠席人ノ利益ト
ナル

之レニ反シテ欠席人損ナルコトアリ其出席シタ
ル人ノ負ケタル時ハ欠席シタル人モ負トナル
尙人出席シタル上ハ欠席シタル人ニテ故障ヲ
云フコトヲ得サルニ至ルナリ

此ノ如キ不都合アルユヘニ其時ニ欠席シタル
人ハ欠席ノ言渡ヲ受ケ一人ノ出席シタル人ハ
取調ナサズ更ニ後ノ日ヲ定メテ呼出ス

其後ノ日ニ至リテ尙人欠席スル時ハ欠席裁判

ヲ言渡スナリ而シテ其人ハ故障ヲ述フルナリ

得サルナリ 控訴スルナリ得ル事件ヲ
控訴スルハ此限ニアラス

譬一ハ名村ト池田ト被告人トナリテ玉乃ニ呼
出サル

名村ハ必席ニ池田ハ欠席セリ

其時ハ名村ハ出席スル故裁判ハ為サス池田ハ

欠席ト言渡サレ共ニ再ニ呼ヒ出タサル

再ニ別段其ナニ係ル ゴエエコニ
此事ハ後ナリ依テ明説セス ト云フ

使吏ニテ呼ヒ出ス

其時池田又欠席ヲ為ス其時ハ名村ハ出席シタ

司法省

ルエ一池田モ共ニ出席裁判ヲ言渡サル依テ一

方ハ欠席一方ハ出席ノ裁判トナルノ不都合ナ

シ

大略ヲ言ヒタリ猶又大畧ヲ云ハニ

委敷書クニ及ハス

被告人兩人アリ一人ハ出席シ一人欠席ス其時

ハ欠席セシモノハ欠席ト言渡ス

此條ハ縦令呼出状ハ違セスシテ欠席スルトモ

支レニハ別ニ關係セスレテ用ユル條ナリ

一體欠席ヲ為シタル時ハ裁判官ニテ呼出ノ違マ

サレモノト見做ス然レ氏呼出ノ違セストハ
書カス再度ニハ別段ニ任レタル使吏ヲ以テ時
出状ヲ違スルナリ 繼令ハ前度ハ名村カ出席シ
池田欠席シ再度ハ池田出席シ名村欠席スルト
ニ同断ナリ
被告人五人アルキハ代書師一人ニ任レテ足ル
一々
能ハス五人アルトキハ一人ヲ任セサルヲ得
ス但シ五人ニテ銘々入費ヲ出シ代書師一人ハ
任スルハ苦シカラス

司法省

其訴状ハ一通ニテ足ルヘキヤ
同レトナレハ一通ニテモヨシ 誰々ハ何廉
違フト書ケハ又一通ニテヨロシ
此原文ハ明瞭ヲ欠ク其作ノ譯文ハ餘程補ヒタ
ルナリホアソナート我カ意ヲ以テスル時ハ別
ニ書キ方ナリ他日書キテ示スヘシ
此條ハ佛國ノ諸生ハ解シ得ス因テ生徒ヲ試験
スル條トナスナリ

第百五十四條

此條モ亦解シ難キ所ナリ

原告人ノ欠席シタルコトヲ云フヤリ

原告人ノ代書師ヲ立テサルノコト無シ仍テ欠席
スルニハ原告人ノ欠席ハコソクルヨシキ事サ
ルコトヲ云フ

原告人ノ代書師ハ欠席シテ見込書ヲ出サス被
告人ノ代書師ヲ立テ見込書ヲ出ス此場合ニ於
テハ原告人ノ願ハ取上ケスト言渡スコトモヤリ
被告人ハ用事ナモト云ヒテ追還スコトヤリ
此ニツノ中一方ニ決セサルハカラス此ニツテ
若シ追還サル、ノミニテハ被告人ハ何時モテ

司法省

モ引カ、リテ迷惑ヲ為スヤリ仍テボヤクヤリ
ト案スルニ第百五十條ニ循ヒ原告ヤリ被告ナ
リ欠席シタル時ハ一旦欠席裁判ヲ為シ後ニ改
障テ云ヒ立ツル方ヨロシ

被告欠席シタルトモハ欠席裁判トナシ原告欠
席シタル時ハ取上ケスト為ス

第百五十條 原文ニハ原告被告ト區別セズ双
方ノモノト書イテアルヤリ

訴訟法會議筆記

七年三月五日

司法省

第一百五十五條

此條ハ種々ノフヲ述ヘタルモノニテ頗ル混雜セリ一々之ヲ分解セサルヘカラス

關席裁判ハ故障ヲ述ヘテ裁判取直シノ出来ルモノナリ

尤モ夫々ノ區別アリ

關席裁判ハ暫時裁判ヲ言渡シタルモノト同シ

關席裁判ニモセヨ其言渡書ハ一方ヘ送達セサルヘカラス

司法省

其送達セサル間ハ故障ヲ述フル期限ヲ生セス

此條ニ區別スル如ク若シ被告人代書師ヲ立テ

タルトキ始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリ

タル言渡書ハ其代書師ヘ送達ス若シ代書師ヲ

立テサルトキハ被告人ヘ直々ニ送達ス

始末書ヲ出サスシテ欠席裁判所トナリタル言

渡書ヲ送達シタルヨリ八日ヲ過クレハ故障ヲ

述ルヲ得ス

其八日ヲ過キサル間ハ一時執行ヲ停止ス其八日ヲ過キタル後ニ執行ヲ始ム

若シ代書師ヲ立ツルトモ始末書ヲ出スコトヲ急
タリタル為メニ開席裁判トナリタル時ハ八日
ノ期限内ニ故障ヲ述ヘサル可カラス其期限ヲ
過クレハ其訴訟ヲ取り上ケス
其八日ノ間ハ被告人ヨリ故障ヲ述フルヲ得ル
ト雖モ其間ハ原告人ニテ執行スルコトヲ得ス
第百五十七條見合

其八日ノ期限ヲ生スルハ裁判言渡シノ日ヨリ
生スルニ非ス原告人ヨリ被告人ヘ送達シタル
日ヨリ算出スルナリ

司法省

言渡書ヲ送達スルハ始終後レ勝テナリ何トナ
レハ繁忙ノ裁判所ハ本文并寫シ等ヲ作ルニ早
速ニハ出来難シ多クハ十日位ヲ費ヤスナリ之
ヲ送ルハ吏使ナリ

八日ト言フト雖モ其実ハ滿八日ナル故昂テ十
日トナルナリ

代書師ト原告人ト相談シテ之ヲ送達セヨト云
ハサル間ハ使吏ハ之ヲ送達スルコトヲ得ス
其言渡書ハ書記官ヨリ代書師之ヲ受取リテ使
吏ニ渡スナリ

タトハハ原告人ニテ湯治ニ行カント欲スルト
キ關席裁判ノ言渡シアリ其時直千ニ之ヲ被告
人へ送達スル時ハ其故障ニ付テ争ハ他行留守
中ニ始マル譯ナリ其場合ニ於テハ原告人ニテ
湯治ヨリ歸リタル後之ヲ送達セヨト言フトア
リ

又代言人ニテ此節甚タ多仕ナリ仍テハ君ノ為
メニ大ニ尽カスルコトヲ得ス遺憾ナリ仍テ一ヶ
月ヲモ過キタル後ニ之ヲ送達セト云フコトモア
リ

司法省

代書師ヲ立テスニ關席裁判トナリタル分ハ違
フナリ之ハ六ヶ月中ニ執行ヲ為サハル可カラ
ス何トナレハ被告人ニテ一切知ラスニ居ルモ
亦知ルヘカラス其六ヶ月期限ノ算出ハ其裁判
言渡ノ日ヨリ生ス

代書師ヲ立テタル分ハ何時マテ之ヲ猶豫スル
コトヲ得ヘキヤ

三十ヶ年間ハ苦シカラス

代書師ヲ立テ、見込書ヲ出サハルコトニ付再ヒ
説カン

原告人ニテ言渡書送達ヲ永々延引スルニ於テ
ハ被告人甚ク迷惑ヲ蒙ルナリ其時ハ被告人
ヨリ故障ヲ述フルナリ
一方ハ三十年一方ハ六ヶ月ト相違スルハ人民
ノ為メニ便益アルコトナラン之ハ何レノ譯ナリ
ヤ
第百五十六條ヲ説ケハ分明ナリ
假リニ裁判ヲ行フコトヲ一寸置キテ第百五十六
條ヲ説カントス
第百五十六條

司法省

始末書ヲ出サスシテ閣席裁判トナリタル時又
代書師ヲ立テスシテ閣席裁判トナリタル時此
ニツノ間ニ三ツノ大切ナルコトアリ即チ此條之
ナリ
之ハ被告人ヲ保護スルヨリ起ルナリ被告人ニ
テ代書師ヲ立テサルハ即チ呼出状ヲ知ラサル
ト看做スナリ
始末書ヲ出サスルハ呼出状ヲ知ルニ相違ナシ
仍テ何レニ便益アリヤト云フ時ハ呼出状ヲ知
ラサル方ニ多クアルヘシ

第一二

呼出状送達ノ方法

代書師ヲ立ラス 闕席裁判トナリタル時ハ此條ニ云フ如ク裁判所ヨリ別段ニ使吏ヲ命シテ送達ヲ為ス

其使吏ハ裁判所ニ居リテ裁判所中ノ事ヲ熟知セルモノナリ其中ヨリ選ミテ之ニ命ス
一ヶ年裁判所へ出テ勤ムルトニ定マリアルナリ又ハ其頭アリ即チ頭ヲ選ムトモアリ
特ニ之ニ命スルハ被告人ハ再ヒ間違ナリ
是ニ

司法省

之ヲ達スル為ノナリ

第二八

第百五十八條ニアリ之ヲ讀ム

始末書ヲ出サスシテ闕席裁判トナリタル時ハ八日内ニ非サレハ故障ヲ述フルトテ許サス

代書師ヲ任セスシテ闕席裁判トナリタル時ハ執行ニ至ルマテハ故障ヲ述フルトテ許スナリ此ニツノ相違スル道理ハ 代書師ヲ立テサレ裁
判ヲ言渡シタルマテノミニ非テス

執行中財産ヲ買却中ト雖モ故障ヲ述フルトテ若

シカラス

第三ニ

一般ノ法ニヨレハ三十年ハ期滿得免ノ期限ナリ代書師ヲ任シテ闕席トナリタル言渡書ハ原告人ニテ三十年之ヲ握リテ送達セストモ若シカラス

代書師ヲ立テス闕席スルモノヲ三十年ノ期限ト定テ其三十年目ニ故障ヲ述フルノ道理アリト雖モ証書並証人モ或ハ無ク實際ノ証ヲ立テ得サルヲモアルヘキナリ

司法省

其時ニ至リテ受取証書等ヲ失ヒ被告人ノ迷惑トナルヲ多シ

仍テ法律上ニテ六ヶ月間ト定ムルナリ六ヶ月間ナレハ衆証モ存在シテ被告人ニテ辨解スルヲ得ルナリ

但三十年ハ被告人ニテ之ヲ拒クノ權アリトスルノミ

以上三ツノ違ヒアルナリ

再ヒ云フ

第一ハ別段ノ使吏ヲ命シテ言渡書ヲ送達スル

丁
第二ハ 八日ノ期限ノ後ト雖モ故障ヲ述フルコト
ヲ得ルコト

第三ハ 代書師ヲ立テサルモノハ 裁判執行マテ
ハ 故障ヲ述フルコトヲ得ルコト
一方ハ 三十年マテモ 送達セストモ 若シカラス
一方ハ 六ケ年間ニ送達セサレハ 言渡ノ効ナシ
代書師ヲ立テサル方ヲ 注意シテ 保護スル者ハ
其呼出ノ達セサルモノナリト 看做スユヘナリ
順序ニヨリテ 次條ヲ 説カサルヲ得ス

司法省

第百五十九條

此條ノ大意ヲ云ハン

代書師ヲ立テスシテ 闕席裁判トナリタル時ハ
其執行中ハ 故障ヲ述フルコトヲ 許スト 虽モ其述
フルコトヲ 得サルハ 何レノ時ヨリ 始マルト云フ
コトヲ 説キタルモノナリ

裁判執行ノ終リタル期限ハ

被告人ノ 動産ヲ 抵償トシテ 取押ヘタルノミニ
ニテハ 執行ノ 濟ミタルモノニ 非ス之ヲ 賣拂ヒタル
時ハ 濟ミタリトナス 但其代價ノ 受取ラストモ 同

シ苦シカラス

何トナレハ自己ノ財産ヲ人ニ取ラレテ賣ラレ、
トヲ知ラサルノ理ナシ然ルニ賣拂ヒタリトモ
黙スルハ自己モ承諾スルト看做スナリ

禁錮云ミハ佛國ニテ之ヲ用ヒタルトキ立テタ
ル法ナレハナリ今ハ之ヲ廢止セリ

之ハ原告人ニテ被告人ヲ禁錮セシムルモテ黙
スルノ理ナシ仍テ之ヲ承諾セシト看做スナリ
或ハ被告人他ノ負債ノ為メニ禁錮セラレタル
時一人ノ原告人獄ノ書記局ヘ行キ其被告人ヲ

司法省

呼ヒ書記役ニ云フテ曰即今ノ禁錮ノ終リタル
時直キニ此人ヲ獄ヨリ出スヘカラスト云フ其
時被告人ニテ原告人ノ面前ニテ故障ヲ述ヘサ
ルヘカラス

不動産ハ之ヲ賣却スルヲ待ツニ及ハス使吏ニ
テ之ヲ差押タリト云ヒタル時故障ヲ述ヘサル
ヘカラス

或ハ自カラ裁判入費ヲ拂ヒタル時

又何事ニ關セス被告人ニテ裁判ノ執行ヲ知
シタルトテ分明ナル所為ヲナシタルトキ

此末段ハ大體ヲ説キタルモノナリ

故ニ例ヲ舉サレハ了解スルヲ難カラシ

名村負ケ被告人ナリ以上ノ四件ハ自己ノ為ノ
ニナシタルヲナリ然ルニ名村ヨリ玉乃ヘ貸金
アリ原告人ノ小田切ヨリ玉乃ニ云ツテ曰君名
村ヨリ借金アリ之ヲ名村ヘ拂フヘカラスト之
ヲ取押ヘ其旨ヲ名村ヘ通知ス其時名村ニ於テ
故障ヲ述ヘサル可カラス
以上ニ舉ケタル期限ヲ過クレハ故障ヲ述フル
ヲ得ス

司法省

若シ故障ヲ述ヘタル時ハ其執行ヲ止ムヘキナ
リ

箕譯ノ前數條云ミ定記内ハヨロシカラス故ニ
未ヲ以テ抹ス

ホアツク曰箕譯ノ悪キニ非ラスエードノヨロ
シカラサルナリ

ホアツクナード曰上ニ述ヘタル執行ノ未夕終ラ
サル以前トナス方ヨロシ

此末段ヨリ遙カニ第百五十五條ノ後項ニ應ス
關席裁判トナリタル者ヲ假リニ執行ヲ命スル

トアリ之ハ至急ノ事件ニ非ラサレハ為サス
第百五十五條前項ノ但書ヲ見ル可シ

此但書ヲ文面ニ闡セス説カン之ヲ聞テ而シテ
後ニ文面ヲ讀ム可シ

裁判執行ヲ中止スルハ二ノ場合アリ。一ツニハ
八日内ニハ故障ヲ述ヘサルト虽モ執行スル
ヲ得ス之一ツナリ

若シ相當ノ期限内ニ故障ヲ述フル時ハ執行ス
ルヲ得ス之二ツナリ

此時ニ當ツテ至急ノ場合ニハ執行ヲナスヲ得

司法省

サルノ期限ト雖モ之ヲ執行スルヲ命ス

タトヒ至急ノ場合ト云フトモ第百三十五條ニ
記シタル場合ニ非サレハ之ヲ為スヲ得ス

裁判官ニテ至急ノ場合ト思フ時ハ執行ヲ言渡
ス併シ至急ノトニテモ八日ノ内ニ故障ヲ述フル
時ハ之ヲ執行スルヲ得ス

至急ノ場合ヨリ又更ニ一層至急ノ場合アリ之
ヲ大至急ト云フモシ之ヲ猶豫スルトキ損害ノ
起ルヲアリ其時ハ故障ヲ述ヘタリトモ之ヲ執
行スルナリ

前項ノ但シ書ハ故障ヲ述フレハ之ヲ中止スト
至急ノ場合ノ例ヲ擧ケン

第一ノ至急ハ

縦令ハ家ヲ借リタルニ風雨ノ為メニ家ノ破損
アリ家主之ヲ修復セス仍テ之ヲ訴タリ其時裁
判官ニテ八日内ニ執行セシムルナリ

前項ノ分ニハ故障云ミト書イテ無之故ニ故障
司法省

ヲ述フレハ其執行ヲ中止ス

又タトヘハ前文ノ場合ニ於テ屋根ヲ総テ吹飛
ハシテ身ヲ容ル所ロナシ其時ハ故障ヲ述フル
ト雖モ之ヲ執行セシム之レ大至急ナリ

又縦令ハ家ヲ建テ掛ケテアル時大工ニ命シテ
材木ヲ運ハシム其遷延スル為メニ家ヲ建ツル
トテ得ス其時ハ至急ナリトス

然ルニ其材木ナケレハ既ニ建テタル家ニテモ
壊ル、トアリ之レ大至急ナリ

又大工ニテ家ヲ建ルニ家ハ既ニ建タルニ屋根葺

来ラス仍テ既ニ建タル家モ朽腐スルヲアリ之レ
大至急ナリ

又大工ニ命シテ家ヲ一軒建テシノタリ然ルニ
其家ハ更ニ建添ヘキモノアリ大工之ヲ建テ添
ヘス之至急ナリ併シ屋根ヲ葺カサル如キモノ
ニアラス尋常ノ至急ナリ

尋常ノ至急ノ時ニハ八日ノ期限内ト雖モ執行
セシム其執行中ニ故障ヲ速フルモノアレハ之
ヲ中止ス併シ其損害ノ他ニ及フト思量スルト
キハ大至急トナシテ假リニ執行セシム

司法省

裁判官ノ見込ニテ被告人ノ勝テトナルト思フ
時ハ保証人ヲ立テシメテ假リニ執行ヲ命スル
トアリ

仍テ第百三十五條ニ照合シテ見ルトキハ分明
ナリ

第百三十五條ノ記スル所ニアラサレハ至急ト
ハ為サ、ルナリ

第百三十五條ニ七箇ノ目ヲ立テ、アリ其七目
外ニ三箇アリ合セテ十箇トナスナリ

此至急ト大至急トノ分界ハ佛人ニ於テモ甚ク

誤リヤスシ書キ直サ、レハヨロシカラス
第百五十六條以下ハ故障ヲ述フル法式ナリ
第百五十五條ヨリ第百五十九條マテハ肝要ナ
ルナリ注意スヘシ

前ニ説キタル三十年期限ハ何ソ法ニ基クヤ
貸借ノ一般期限ヨリ生ス

法律ニ於テ其期限ノ年月ヲ記セサルモノハ總
テ三十年ト心得ベシ

如何ナル小區ニテモ代書師ナキ地ハナシ代言
人無キ所ハアリ此ノ如キモノハ代書師ニテ代

司法省

言人ヲ兼ルナモアルナリ

假リニ裁判言渡ノ方ハ成リ丈ヶ早ク故障ヲ述
タトモ執行ハ中止セストモ速ニ述フヘシ時ニ
ヨリテハ執行中ト雖モ裁判ヲ取直スナリ
此假リ執行ヲ取直スハ何ニ依ルトナレハ即チ
裁判取直シニ依リテ替ルナリ故ニ成リ丈ヶ早
ク述ヘサルヘカラス

司法省

訴訟法會議筆記

十二月十日

司法省

第六十條 被告人ノ代書師出席セス出席ス
ト至モ論辨ヲ為サスシテ被告人欠席トナリ裁
判言渡ヲ受ケタル時ハ其代書師ヨリ相手方ノ
代書師ニ裁判所ヘノ願書ヲ送達シテ其故障ヲ
述フ可シ

故障ヲ述フルニハ必ラス書付ヲ出サ、ルヲ
得ス之レヲ訴ト云フソノ「レケ―ト」ニ二種アリ

眞譯願書即チ願書ニテヨロシ
裁判所ヘ願フトキハ訴トナル

司法省

第一ニハ裁判長官ヘ直チニ出スモノナリ第
二ニハ別ナルモノアリ

其直チニ出ス「レケ―ト」ハ至急裁判ヲ乞フト
キ出席ノ期限ヲ延ストキ式日等ニ呼出状ヲ
送達スルトキノ三ツナリ

今説カントスル所ロノ「レケ―ト」ハ第二ノ別ナ
ルモノナリ

同シク「レケ―ト」ト云フト雖モ之レハ裁判長
官ヘ直チニ出スモノニアラス

此「レケ―ト」ハ一方ノ代書師ヨリ一方ノ代言

師へ送ルモノナリ之レヲ扱フモノハ吏使ナ
リ其使吏ハ裁判所ノ訟庭ノ下ヲ取扱フ使吏
ナリ之レヲ代書師ヨリ代書師へ送達スル所
ロノレケートト云フ

此時ハ必ラス代書師ノアルトキノ下ニテ即
子任末書ヲ出サ、ルトキニ限ルナリ 代書人
ヲ任シ
タリトモ出席セ
サル下ヲ云フ

其譯出席セス云々ノ下アレ氏原文ニハ之レ
ナシ

其レケート上ヲ原告人ノ代書師ヨリ被告人ノ

司法省

代書師へ送リ欠席裁判トナリタル下ヲ知ラ
セタル時被告人ノ代書師ヨリ故障ヲ述フル
書付ヲ原告人ノ代書師へ送達スルナリ

其レケート上ノ宛所ハ裁判所宛ナリ

此レケート上ヲ送リタルトキ双方ノ熟識トナ
ルトキハ夫レニテ済ス万一方ノモノニテ

不承諾ナルトキハ裁判所へ出テ帳簿へ書キ
入レ本日ニ至リ裁判所ニテ争フ為スナリ

故障ヲ述フルニ於テハ裁判所ニテ之レヲ聽
カサルヲ得ス故ニ裁判所へ豫ミノ願ハス先

ツ一方ノモノヘ見スルナリ之レ古来ノ習慣ナリ

故障ヲ述フルハ裁判言渡書ヲ勝チ訴訟即チ原告人ノ代書師ヨリ被告人代書師ヘ送達シタル日ヨリ八日ノ期限ノ内ニナス可シ答辨書ヲ送ルハ十五日ナリイツレモ之レヲコレケ
一上ト云フナリ
之レモ直ニ裁判長官ニ差出スニアラス代書師ヨリ代書師ヘ送ルナリ

第百六十一條 其願書ニハ裁判言渡ニ付キ故

司法省

故障ヲ述フル憑據ヲ記ス可シ但シ其裁判言渡ノ前既ニ被告人ノ答辨書ヲ故障ヲ述フル憑據トシテ用ヒントスルヲ記スルノミニテ足レリトス

此法式ニ背キタル故障申述ノ書ハ裁判ノ執行ヲ止ムルヲ得ス且原告人ノ代書師ハ被告人ノ代書師ニ答書ヲ送ルノミニテ其他訴訟ノ手續ナク其故障申述ノ書ヲ却還スルヲ得可

此條ハ故障ヲ述フルトキノ文章ハケ様ノ譯

ヲ以テ故障ヲ述ルト云フヲ書クヲヲ説キ
タルモノナリ

故障ヲ述ルコトニハ其故ヲ書記セサル
ヲ得ス

併ニ既ニ答辨書ニテ其事故ヲ委シク書イテ
送リタル上ニハコトニ其故ヲ委シク記
スルニ及ハストス

此法律ニ記載シタル如クニ書カス又前ニ答
辨書ヲモ出サス総テ法律ニ違ヒタルコト
トハ其効ナシトス

司法省

其時ハ裁判所ニテ此コト止ハ式ニ違フモ
ノナルユヘ取上ルヲ得スト言渡スナリ
其時ニハ夫レ切リニテ済ム

ホアソナリト曰之レニテ差支モ面倒モナキ
コトナレバ此法律ハ嚴酷ナリトス

式ニ違フタルコト止ノ出シタルトキハ何
事ヲモ取調フルコトナク一通ノ言渡シ書キヲ
出スノミ

其譯誤アリ且六ク以下ニ刑改ス
故障ヲ述フル書付ハ裁判官ニアラサレハ之

レヲ却還スルヲ得サルナリ

縦令ハ被告ノ代書師ヨリ原告ノ代書師
ヘ故障ヲ述フルレケール上ヲ送リタルニ其書
ノ式ニ違ヒタル時ハ之レハ其効ナシト云ヒ
テ之レヲ還シ夫ヨリ原告ノ代書師ハ裁判
所ヘ出テ被告ノ代書師ヨリ故障ヲ述ヘタ
ルニ其レケール上ハ式ニ合ハサルヲ以テ還シ
タリ依テ被告ノ代書師ヘ其故障ヲ述フル
レケール上ハ用ヲ為サ、ルノ言渡ヲ願フト云
フ其時裁判所ニテ原告被告代書師ニ別段取

司法省

調ノ手續ナクシテソノ効ナキノ言渡ヲナス
ナリ

其レケール上ヲ被告ノ代書師ニ還ストキ何月何日ニ
裁判所ヘ共ニ出ント言ヒ送ルナリ

其裁判所ニ出テタル時ハ原告ノ代書師ハ被
告人ノレケール上ヲ讀ミ上ケルナリ

其時ハ裁判官ハ原被告双方ノレケール上ヲ讀ム
ヲ聽カサルヘカラス万一被告ノ故障ヲ述
ルレケール上ハ式ニ違ハサルトキ原告ノレケ
ール上違ヒタルト為シテ其レケール上ヲ効ナ

シト言渡ス

被告人ノ口ケー止ノ式ニ違ヒタルトキノ裁判費用ハ被告人之レヲ拂ハス被告人ノ代書師之レヲ拂フナリ

之レモテハ代書師ノアルトキノナリ

第百六十二條 被告人代書師ヲ任セスシテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ手續ヲ經サル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂フ可キ要決ヲ書財産ノ抵償又ハ禁錮ノ調書又ハ其他總テ裁判執行ヲ命スル書ニ故障ノ旨趣

司法省

ヲ附記シテ其故障ヲ述フルヲ得可シ但シ故障ヲ述フル者ハ其後八日內ニ必ス代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願書ヲ吏ニ出サシム可ク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ故障ヲ述フルヲ許サス原告人別ニ裁判執行ノ命ヲ得スシテ其執行ヲ繼キ為ス可シ

被告人代書師ヲ任セスシテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時原告人ノ代書師死去シ又ハ其職務ヲ行フヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ更ニ代書師ヲ任シタルヲ被告人ニ報知ス可

シ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ
期限内ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ
述ケル願書ヲ吏ニ出サシム可シ

何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判
言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送達シ
タル後更ニ出シタル故障申述テ憑據ヲ記スル
書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

此條ハ代書師ヲ立テスミテ欠席トナリタル
トキノトナリ

ツノ時ハ被告人ヲ惠ムノ法ヲ立テ成リ支ケ

司法省

酷ナラスシテ簡易ニ故障ノ出未ル様ニナシ
タルモノナリ

被告人代書師ヲ立テスミテ欠席裁判トナリ
原告人ヨリ裁判言渡書ヲ送達サレタル時ハ
即チ代書師ヲ立テ何某ヲ代書師ニ立テタリ
ト原告人ハ言送ルナリ

其文格ハ「コケー」ト「ハアラス箕譯ニ裁判所
ノ手續ヲ經サル書トハ相對ノ書付ケニテ裁
判所宛ノ書付ケニアラサルヲ云フナリ

例ハ「呼出状」後ニハ裁判所ハ出ツルナ

レ凡其呼出状ハ裁判取宛ノ書付ニ非ラサル
モノ故即子裁判取ヲ經サル書付ケト云フ

裁判取ヲ經サル書付

此條原文ヨロシカラス

裁判取ヲ經サル書付ケト云フハ負債ヲ拂フ
可キ余令ノ書財産差押ノ書等皆子裁判取ヲ
經サルモノナリ故ニ別段ノ書付ケト云ヒテ
是レリ

負債ヲ拂フヘキノ命令ノ書トハ裁判執行
ノ書付ケニテ使吏ノ書クモノナリ裁判取ヲ

司法省

經タルモノニアラサルナリ

之レヲ送達シタル時故障申述ヘント欲スル
モノハ其旨ヲ其書ニ附記シテ是レリトス
元ヨリ裁判取ニテ言渡シヲナシタル上ハソ
レニテ裁判取ノ役ハ済ムナリ其言渡シノ通
リニスルヤセサルヤハ関セス

コモンメントマニ箕作要決ト譯

此ノ如ク行ヘト云フ余令ノ書

負債ヲ拂フヘキ云々ノ書ハ使吏ニテ裁判言
渡書キノ寫シヲ作り此ノ如ク言渡サレタル

ニヨリテ様々ニ執行スヘシト使吏ヨリ余
令スルモノナリ

裁判官ニテハ裁判言渡ヲ為スノミ其後使吏
ニテ原告人ノ頼ミヲ受テ裁判言渡書ヲ寫シ
此言渡書キニヨリ誰ヘ何々ヲ渡セ或ハ何程
ノ金ヲ拂ヘト云フヲ我レヨリ命スルト書
キテ被告人ヘ送ルナリ
執行ノ手續ヲ説カントス
欠席ナリ出席ナリ其裁判ヲ言渡セハ裁判官
ハソレニテ済ムナリ

司法省

日本ニテハ裁判官ニテ其済マテモ世話ヲス
ル心ナル可ケレ凡ソレハ整ラク捨テ、聞ク
可シ

サテ裁判言渡書ハ勝訴訟ノ者ヘ渡ス之レハ
勝訴訟ノ証據ナリ

出席ナレハ双方ノ手數ノ済ミタル上ニテ一
方ノ勝者ヘ言渡書ヲ渡スナリ

其後ノ手續キハ

裁判執行スルコトハ直チニスルコト能ハス
使吏ニテ其言渡書ノ寫ヲ作り負訴訟ノ者ニ

送ル

其時ニ此命令書ヲ送ラント欲スルハ直子ニ
送ルヲモアリ

裁判言渡書ヲ送り直子ニ執行セシメントス
ルトキハ使吏ニテ裁判言渡書ノ下ニ此ノ如
ク執行セヨト書キ送ル

其時ハ二十四時間ニ執行セサルヲ得ス若シ
急ニセサル時ハ先ツ言渡書ノミヲ送ル而シ
テ後ニ命令書ニ送ル

命令書ヲ送りタル後二十四時ノ間ニ執行セ

司法省

ナル時ハ使吏ニテ負訴訟ヘ行キ財産ヲ取押
スルナリ

其時ニ自カラ行キ物品ヲ持テ帰ル等ノトハ
決シテ為サス

其余令書ヲ送りタル凡其執行ヲ為サルニ
付キ何々ヲ取押スルトノ書付ヲ物品ノ番人
又ハ本人ニ渡ス

其調書ノ下タヘ何月何日ニ之レヲ糶賣スル
ト書ク

其糶賣ハ公ケノ糶賣ニテ其宅ニテ賣リ又ハ

之レヲ為ス可キ所へ出シテ賣ルナリ

其時ハ夫婦ノ卧床並ニ衣服渡世ノ書類其他
職業道具等三百ハラニク之丈々ノモノヲ引除
クナリ

其前ヨリ身ニ着シタル衣服ハ何程ノ美ナル
モノナリトモ又ハ指輪金鏢等モ總テ取ル
ヲ得ス

縱令何程多ク着スルトモ之レヲ取ル
ヲ得ス

万一美服ナラハ脱カセヨトノ法律アレハ使

司法省

史ハ庶服ヲ着セテ美服ヲ脱カスル等ノ弊
アルヲ以テ其法ナシ

不動産アレハ之レヲ押ユルトモ苦シカラ
ス併シ之レヲ賣ルハ三十日間ヲ経サレハ
能ハ

禁錮ハ其人ノ入獄セシムルナリ

執行ノ書付ケハ三ツトナル

第一動産ヲ取押ユル

第二不動産ヲ取押ユル

第三人ヲ取押ユル

其書付ケハ何ノ故ヲ以テ動産ヲ取押ヘ何ノ
故ヲ以テ不動産ヲ取押ヘ何ノ故ヲ以テ其者
ヲ取押ユルト書付ケヲ送ル

若シ控訴ノ出来ルナレハ其期限内ハ其執
行ヲ中止スルアリ

其執行中ニ物ヲ以テ拒ク時ハ邏卒其他公兵
ヲ連レテ行クヲ得ル

控訴又ハ故障ヲ為ス時ハ其間ハ執行ヲ中止
スルナリ併シ乱暴ヲ以テ其命令ノ如ク為サ
サル時ハ邏卒等ノ助ケヲ得テ行フナリ

司法省

ゴロスト云フ書付ケアリ其書付ケニ仏国人
民ノ命ニ依テ此ノ如ク言渡ス万一此命令ノ
如ク執行セサル時ハ邏卒兵隊ヲ以テ此書付
ケノ如ク行ハシムト書イテアルナリ

此書付ケナケレハ何ノ用ヲナサス

之レハ裁判所ヨリ必ラス渡スナリ

裁判言渡ノ本書ハ裁判所ニ残ルナリ其寫シ
ヲ勝訴訟ノ者ニテ之レヲモラフナリ其字面
ヲ大字ニ書キタルモノナル故「ゴロスト云フ
ナリ

使吏ハ其書付ケテ懷中シテ行クナリ併シ見
セハセサルナリ

此「グロス」ハ裁判所ヨリ云ヘハ寫シナレテ勝
訴訟ノ者ヨリ云ヘハ本書ナリ使吏ヨリ負訴
訟ノ者ヘ送達スルモノハ又其寫シナリ

此「グロス」ヲ書記官ニテ渡ス故其手数料ヲ書
記官ヘ出スナリ

此「グロス」中ニ羅率兵隊ノ手ヲ借ル「」ヲ書イ
テ「」ル故万一拒クモノナルトキハ其カヲ借
ル即チ此「グロス」アルヲ以テナリ

司法省

此次會ニ故障ヲ述フル手ツ、キヲ説カントス

司法省

訴訟法會議筆記

七年五月十五日

司法省

第百五十六條ニモトル

第百五十六條ニ代書人ヲ立テスシテ欠席裁判トナリタルトキハソノ裁判言渡書ヲ別段選ミタル使吏ニ持タセテ遣ルト書テアルナリ

然ルニ此ノ如クニ取扱フコトヲ得サル場合アリ

被告人ノ住所ノ裁判所ノ管轄内ニアテサルコトマ、アリ物件ノコトニ付テハ妻クアルコト

司法省

ナリ

タトハ原告東京人ニテ被告大坂人ナルトキハ東京裁判所ヨリ大坂裁判所ニ托シ遣リ大坂裁判所ヨリ別段使吏ノ命シテ送達ス被告人數人アルトキハ猶尚為スヘカラス之ニ等ハ惣テソノ管轄ノ裁判所ニ托シテソノ々ニ使吏ヲ命スルナリ

遺物分配ハコトニ付テハソノ死ニタル人ノ地才ニテナスコトハソノ分配ヲ受クルモノハ各地ヲ散在スルモノヲ惣テ前ノ年ツキニ

以テスルナリ

右ハ過日説クヘキ所ロナレモ忘レタルユヘ
今日説キ添ヘタリ

第百六十二條 被告人代書師ヲ任セシテ欠席
トナリ裁判言渡ヲ受ケタルモハ裁判所ノ手續
ヲ經ナル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂フ
可キ要決ノ書財産ヲ抵償又ハ禁錮ノ調書又ハ
其他總テ裁判執行ヲ命スル書ニ故障ノ旨趣ヲ
附記シテ其故障ヲ述フルヲ得可シ但シ故障
ヲ述フル者ハ其後八日內ニ込ス代書師ヲ任シ

司法省

其代書師ヲシテ故障ヲ述フル類書ノ更ニ出サ
シムヘク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ故
障ヲ述フルヲ許サス原告人別ニ裁判執行ノ
命ヲ得スシテ其執行ヲ継キ為ス可シ
被告人代書師ヲ任セシテ欠席トナリ裁判言
渡ヲ受ケタルモ原告人ノ代書師死去ニ又ハ其
職務ヲ行フトヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ
更ニ代書師ヲ任シタルヲ被告人ニ告知スヘ
シ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ
期限内ニ代書師ニ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ

述フル願書ヲ更ニ出サシムヘシ
何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判
言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送達シ
タル後更ニ出シタル故障申述ヲ憑據ヲ記スル
書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス
訴訟人出席シテ裁判トナリタルハ裁判言
渡ト使吏ノ命令書トヲ送達シソノ負債ヲ拂
ハサルトキハ財産取押ノナシテ公ケノ
糶賣ヲ為シ取ルヘキモノ之ヲ取ル不動産ハ
少シキツ、キアレハ則チ前ニ同シ之レニテ

司法省

裁判執行ハ済ムナリ

欠席裁判ノ執行ハ如何スルヤトナレハ則チ
出席裁判ト同シ併シ故障ヲ述フルナリ

ソノ故障ヲ述フルハ過日説キタル如ク裁判
執行ノ終ハルマテハ宜シ

第百五十八條ト百五十九條ノ法律ニ云フ所
口ハ欠席裁判ヲ言渡シタリハ猶被告人ニテ
知ラサルヲ恐ル依テ裁判執行ノ終ルマテハ
故障ヲ述フルト苦シカラスト為スナリ

ソノ故障ヲ述フルニハ裁判言渡書ト使吏ノ

命令書トヲ送リタルトキ故障ヲ述ハスハ財
産取押ノ書付ニ對シ故障ヲ述フヘシ
ソノ故障ヲ述フル方法ハ此裁判ニ付故障ア
リト書ク

使吏ノ命令書ニモ本書ト寫シトアリ必ラス
其二通トモニ故障ヲ書キ入ルヘシ

方ニ命令書ヲ送リタルトキ被告人ノ居ラサ
ルヲアルヘシソノトキハ被告人ニテ財産取
調ニ來ル時故障ヲ述フ

或ハ禁錮セララル、片ナラハソノ時ニ述フ

司法省

或ハ糶賣ヲ為ス為メニ財産ヲ運セニ來ル片
ニ述フ

或ハ糶賣ヲ為シテ居ルトキニ之レヲ述フ

ソノ糶賣ノトキニハ評價人アリテ立合フ之
レハ代書人ト同シタ官吏ナリ

ソノ評價人ハ財産ヲ何ノ誰ヘ賣リタリト調
書ヲ作ルモノナリ

ソノ調書ヘ對シテ故障ヲ述ヘタルノミニテ
ハ済マス

ソノ故障ヲ述ヘタルヨリノ日ノ内ニ代書師

ヲ立テ原告人ノ代書師へ其事ヲ言ヒ送ルナ
リ

ソノ八日内ニ此手ツ、キヲ為サ、レハソノ
故障ノ効ナキヲ以テ原告人ハソノ裁判言渡
ノ通り続イテ執行ヲ為スナリ

之レヨリ後ハ原告人ノ代書師死去シ又ハ職
ヲ止メタルトキハ被告人ヨリ原告人ノ代書
師ハ故障ノ書付ヲ送ルコトヲ得ス此トキハ原
告人ニテ更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告人
ニ送達シソノ後被告人ニテ代書師ヲ任シテ

司法省

原告人ノ代書師へ故障ヲ述フルコトヲ説ク
故障ヲ述フルニハ必ラスソノ故ヲ言ハサル
ヘカラス

一旦故障ノミヲ言ヒソノ後ニソノ故ヲ言ヒ
遣ルトキハソノ書付ノ費用ハ代書師ノ自費
ニ屬シ被告人ヨリ拂ハシム

問 ソノ八日内ニ糶賣等ノ入費ハ何レヨリ出
スヤ

答 八日ヲ過キテ被告人代書師ヲ立テス確定
ノ裁判トナリタルトキハソノ入費ハ必テ

ス被告人ヨリ出ス若シ代書師ヲ任且ツ勝
訴訟トナリタルトキハソノ入費ハ原告人
ヨリ出シ且ツ損害ノ償ヲモ出ス

之ニ要スルニ原被モ係ハラス負ケ訴訟ヨリ
入費ヲ出スナリ

第百六十三條 裁判所ノ書記局ニ簿冊ヲ設ケ
置キ故障ヲ述フル者ノ代書師其簿冊ニ被告人
ノ姓名並ニ已レノ姓名裁判言渡書及ヒ故障申
述書ノ日附ト其申述ノ日附トヲ簡略ニ記ス可
シ但シ其記シタル書ノ寫シヲ受取りタル時ニ

司法省

非レハ其記録稅ヲ出スニ及ハス

解シ難キヲナシ

第百六十四條 原告人又ハ被告中一方ノ者執
傳者トナリテ言渡サレタル裁判ヲ其訴訟ニ管
セサル者ニ對シ執行ハントスル中ハ書記局ノ
簿冊ニ故障申述ノ書ヲ記シタルヲナキ旨ヲ証
シタル書記官ヲ請合書ヲ渡スヲ必要トス
欠席裁判トナリタトハ甲負ケタリ乙ハ勝
チタリソノ時ハ甲ハ對シテ執行スルナリ然
ルニ外人ニ對シテ執行ノコトアリ一言ニテハ

愕然タルヘシ併シ之レアリタトハ甲ヨリ
財産ヲ丙ヘ預ケタルトキハ丙ニ對シ執行ハ
サルヲ得ス又被告人ニテソノ品ヲ典シタル
キハソノ典鋪ニ對シ執行ハサルヲ得ス尤モ
ソノ手續ツキハ違フナレ氏此ノ如キ場合マル
ナリ

典シタルキハ必ラス典鋪ヘ掛ル典鋪ニテハ
ソノ金額ヲ拂フヘシ但シ書記局ノ書付ヲ持
參セサルヘカラス之ヲ持參セサレハ典鋪ニ
テハ兼諾セサルナリ

司法省

百六十三條ト此條ハ一條ニ為シテヨロシ
故障ナキ旨ヲ書記局ヘ陳述ニ使吏ニテソノ
書付ヲ典鋪ヘ見セルナリ

此書付ハ本書一通ナリ
典鋪ナレハ典鋪ニモ權利アリ原告人ニモ權
利アリソノ双方ノ權利ヲ害セサル為メニ為
スモノナリ

一應ノ預カリ人ナレハ權利ナシ候シ証書ナ
ケレハ渡サミルナリ

問 計價人ハ財産取押ヘノ時ニ来ラサルキハ

答
ソノ財産ノ見積ハ出来サルニアラスヤ
評價人ハ糶賣ノトキハカリナリタトヘハ
二百圓ノ訴訟ナレハ被告ノ財産ヲ尽ク
取押ユルヲハナラス大抵二百圓位ノ見積
リヲ以テ取押ユルナリ 使吏ハ大抵財産ノ
代價ヲ知ルモノナリ
繁華ノ地ニアラサレハ評價人居ラス使吏
ニテ之レヲ兼タルナリ
更ニ一ツノ外人ニ對スル執行ヲ説カントス
此例佛ニテ尤モ多シ

司法省

タトヘハ甲訴ヲ為シテ乙負ケタリソノ負債
ニ充ルノ財産ナル然ルニ丙ニ乙ヨリ借シ金
アリソノトキハ甲ヨリ裁判所ノ書記局ヨリ
出ス書付ケテ以テ直チニ丙ヘ取りニ行クナ
リ
ソノ時ハ丙ハ必ラス書記局ノ証書ヲ見タル
上ニテ渡スヘキナリ
此証書ハ被告ノ故障ヲ述ヘサル証拠ナリ
此外人ハ訴訟ニ聊カ関係ナキモノニアラス
何トヤレハ被告ノヨリ借リ金アルユヘナリ

第百六十五條 一度差出シタル故障申述ノ書
ヲ却還スル言渡ニ付テハ更ニ故障ヲ申述フル
コトヲ許サス

短文ナレ氏宜シク注意スヘシ

一度裁判言渡ノ故障ヲ止メラレタルモノハ
再ヒ故障ヲ述フルコトヲ得サルナリ

ソノ故障ヲ述フルコトヲ許サルナリ何トナ
レハ裁判所ヲ愚弄セサル為メニ此ノ如クス
ルモノナリ

人アリ始未書ヲ出サスニテ欠席裁判トナリ

司法省

タルトキハ故障ヲ述フルコトヲ得ヘキヤト云
ハ、可ナリト云ハシ然ラハ再度ノ欠席何ノ
為メニ故障ヲ述フルコトヲ得サルヤト云ハハ
最初既ニ欠席裁判トナリタリ再度ノ欠席ニ
ハ故障ヲ述フルコトヲ許サスト答ヘシノミ
大意ハ一度ハ許ルス二度ハ許ルサスト云フ
マテナリ

一度欠席裁判トナリタルトキ式ニ違フタル
書キ付ケラ送ルカ又ハ始未書ニ出サスニテ
再ヒ欠席裁判トナリタルニ付故障ヲ述ヘタ

ルトキハ再ヒ故障ヲ述フルコトヲ許サ、ルナ
リ
係ニ第百六十二條ノ場合ハ此條ノ取り除ケ
ナリ

裁判所ノ手数ヲ經ストモ宜シキト云フトモ
亦手数ヲ經サルヘオラサル場合アリ

タトヘハ使吏既ニ命令書ヲ送ルトキ故障ヲ
述フルニ付キ八日間ハ執行ヲ中止スルト虽
モ被告人ニテ代書師ヲ立ラサルユヘ使吏ニ
テソノ家ニ行キ財産取押ヲナスニ被告人不

司法省

義知ヲ言フトキハ使吏ハ裁判官ニアラス止
ムコトヲ得ス裁判所ヘ呼ヒ出スコトニナルナリ

問 ソノ時ハ兵隊ボリスハ用ヒサルヤ

答 之レハ抗拒スル中ニ限ルナリ

以上ノ場合ニ於テハ原被双方トモニ裁判所ヘ
出ツソノ時ハ使吏ニテ原告人ノ代書師ヘ言
ヒ送り被告人モ代書師ノ立テ裁判所ヘ出ツ
ソノトキ裁判官ハ初メノコトハ言ハス 被告人
ノ故障ハ立タサルニ因リ早ク執行ヒヨト言
渡スノミナリ

第百六十五條ト第百六十二條ト合セテ見ル
ルハ大イニ及スル如クニ見ユルト虫氏此命
令ヲ受ケサル場合アリタトハハ罪ヲ犯シテ
六ヶ月禁錮ノ刑ニ處セラルトキハ六ヶ月
ヲ過クレハ命令書ナクシテ執行スルト虫氏
万一ソノ罪人ニテ故障ヲ言フトキハ裁判所
へ出ツルナリ

之レト同シク八日ヲ過キタルト虫氏被告人
ニテ故障ヲ云フトキハ幾度ヒ裁判所へ出テ
サルヘカラス三度ナレハ三度モ出テサルヘ

司法省

カラス候ニ裁判官ニテ之レカ防キラ付ケル
ナリタトハハ此裁判ヲ遂ケサレハ一日ニ何
程ノ費用アリ之レヲ拂フヘシト言渡スナリ
時ニヨリ使吏ニテ遂ケシムルナリ万一ソ
ノ見込ミノ違ヒタルトキハ使吏ソノ損害ヲ
引受ケテ行フナリ右ノ場合ニテハ決シテ使
吏ノ見込ミ違ハサルモノナリソノ時被告人
手ヲ出ストキハ兵隊ボリスヲ拭クルナリ
尤モ使吏ハ兵隊ボリスノ助ヲ求ムルノ權アリ

至急裁判ノトキハ大抵使吏ニテ行フナリ
使吏ノ役目ハ肝要ナルモノナリ訴訟法ヲ立
ルニ繁冗ニ渉ルハ好マスト雖氏使吏ハ立テ
ナルヘカラス

之レハ官吏ニハ行ハシメサル方ヨロシ身元
ノ慥カナルモノニ身元金ヲ出サシメテ為サ
シムヘシ

官吏ニ使吏ノ役目ヲ命スルトキハ怠タリ又
官権ヲ以テ權外ノ威ヲ振フコトニテ弊害アル
コトアリ何トナレハ官吏ヲ罰スルハ裁判所ニ

司法省

テ甚タ斟酌アルモノナリ而メソノ害ハ惣テ
人民ニ歸ス

佛ニテハ使吏ヲ嚴ニ罰スルナリ

官吏トナレハ之レヲ罰スルハ斟酌アリ

書記等ノ抹人ハ惣テ裁判所ニテ嚴酷ニ罰ス
ルナリ

故ニ人民ハ大イニ安心シテ居ルナリ

法律ノコトヲ巨細ニ説クヨリハ書記代書師又
ハ使吏公証人評價人ヲ立ツルコトノ相談ハ尤
モ難渋ナリ

何トナレハ以上ノモノハ惣テ都合ヨロシキ
モノナレ氏ソノ幣害ノナキ様ニスルハ困難
ナルモノナレハナリ

第九章

第百六十六條 総テ外国人ハ主タル原告タル
ト原告ノ訴訟ヲ助クル者タルトテ問ハス被告
人ヨリノ要ヲ受クルニ於テハ総テ訴訟ノ故障
ヲ述ッル前ニ裁判所ノ費用及ヒ被告人ニ損失
ノ償ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受クル時之ヲ拂フ可
キノ保証人ヲ立ツ可シ

司法省

尋常ノ訴訟裁判ニ至ルマテノ手續ハ呼出状
ヲ送リ答辨書ヲ造リ檢事へ告クヘキトハ告
ケソノ後双方裁判所へ出テ理非ノ分カリタ
ル上ニテ裁判トナルハ面倒ノナキトナリ
欠席裁判ナレハ故障ヲ云ヒソノ上ニ又裁判
所へ出ツルト云フ混雜ヲ生ス
然ルニ各種ノ訴訟裁判中ニ種々不意ノ面倒
ナルト起ルトアリソノ面倒ハ裁判ノ初メニ
起ルトアリ又裁判ノ半ハニ起ルトアリ第一
ニ起ルヲエキセアシヨシト云

「エキ故セ障」アシヨシノ語ニ於テニ夕通りノ意味アリ

民法ト訴訟法ニ依テ違フナリ

民法ニ於テハ事柄ノ原因ニ故障ヲ述フル意ナリ

夕トハハ此權利ハ既ニ解ケタリトカ又ハ此負債ハ既ニ拂ヒタルト云ヒテ防クナリ

既ニ説ク所ロノ中ニモ間々此語アリ偽委シシ指シ示スヘシ夕トハハ連帶スル負債アリ

ソノ一人ノ云フニハ此負債ハ借金トナルヘ

司法省

キモノニアラストカ又風俗ニ違フトカ又ハ

契約ニハナラストカ云フノ類即チ之レ「エキセプロシヨシ」ナリ

民法千二百八條ニマリ又千三百四十條ニアリ又千三百六十一條ニアリ

之レ皆ナ契約編ニアリ就テ見ルヘシ

以下訴訟法ニアル「エキセプロシヨシ」ヲ説カントス

訴訟法ノ「エキセプロシヨシ」ニ於テモ同シク故障ヲ述フルナラレ氏ソノ訴訟ノ原因ノ故障

ヲ云フニアラス之レハ式ニ違フナリト故障
ヲ云フモノナリ

今ソノ例ヲ擧ゲントス違フヤ違ハサルヤ省
ルヘシ

タトヘハ外国人ノ佛ニテ訴訟ヲ為スニハ必
ラス保証ヲ立ツヘキ式アリ故ニ佛人ハ外国
人ニ對シソノ訴ノ原因ニハ関セス訴ヲ為サ
ハ必ラス保証ヲ立ツヘシト求ムルナリ
呼出状ノ所口ニテ既ニ裁判所ノ管轄異ナル
ナラ説キタリ右ノ場合ニ於テハ訴ノ原因ニ

司法省

ハ関セス先^ウ裁判所ノ管轄與ナルナラ云フ
之レ正キセパシヨシナリ

呼出状ハ面倒ナル式アリソノ呼出状ヲ披見
スルニ式ニ違ヒタリソノ時ハ裁判所、出テ
此呼出状ハ式ニ違ヒタルヲ以テ出席セスト
云フナリ

タトヘハ延期ヲ願フトキソノ期限内ニ訴、
ヲ受クルトキハ未タ訴、ノ起ル期日ニハア
ラスト言フナリ

今説ク所口ヲ正キセパシヨシニハ場合又ハ式

遠フト云フナリ

式ニ遠ニタトニ付キ式ノ如クセヨト云フナリ

司法省

訴訟法會議筆記

七年十二月廿日

司法省

第百六十六條第百六十七條

今日ハエキセフニヨン即チ故障ヲ述フルコトヲ
説カントス

過日説キタル外國人ノ訴訟ヲナストキハ保證
ヲ立ツル規則ナリ

民事ニ付イテハ外國人民モ佛國人民モ殆ニト
同種アリ

併シ聊カノ違ヒアリ

元ヨリ政權公權ニ至ツテハ外國人ト佛人トハ

司法省

餘程違フナリ

以前ハ外國人百五十「ハ」ラニク「レ」ノ元金ヲ借りテ
返ス「コト」ヲ得サルトキハ禁錮セラレ佛國人ハ三
百「ハ」ラニク「レ」ノ借金ヲ返ス「コト」ヲ得サルニアラサ
レハ禁錮セス

右ノ通り外人ト佛人トノ違ヒアリタレ氏今ハ
外人モ佛人モトモニ一切禁錮ヲ廢シタリ

今日内外ノ違ヒ聊カアリト云フ「コト」ハ差支ナキ
「コト」思フナリ之レハ内國人ハ便利ノ爲メナレ
ハナリ

ソノ違ヒハ若シ外人原告人ニテ内國人へ對シ
訴訟ヲ為ストキハ請人ヲ立テサル可カラス何
トナレハソノ訴事ヲ取上ケサルトキハ訴訟入
費ヲ生ス之レ拂ハサル可カラス入費ヲ本人拂
ハサルトキハ之レニ代リテ拂フモノナカルヘ
カラサルナリ

外國人ノ被告人トナリタルトキハソノ請人ヲ
立ツルニ及ハス

ソノ外人ハ受人ヲ立テ内人ハ受人ヲ立ツルニ
及ハサル譯ハ外國人ハ佛國ニ居ルニ住所ノ定

司法省

マラサルモノアル可シ之レハ住所ノ定マラサ
ルニ付キ万一頁訴訟トナリタルトキハ本國へ
送ル等ノコアルモ、計ルヘカラス

外人ニテモ住所ノ佛ニ定マリアレハ訴訟入費
等ハ聊カノコニ付テソノ住所ヲ立テ去ルコトハ
ナシ必ラス立テ止マリテソノ訴事ヲ了スヘシ
ソノモノ、便利トナルコトナレハナリ

然ルニ住所ノ定マラサルモノハ必ラス逃走ス
ルナリ

外國人ノ被告人トナル時ハソノ訴訟入費ヲ拂

フノミナラス本件ノ元利ニ至ルマテ仕拂ハサ
ルヲ得サルナリ

其原告人トナリタルトキハ訴訟入費ヲ出スノ
ニ被告人トナリタルトキハ訴訟入費ノ上ニ元
利トモ拂フヘキニ受入ヲ立テサルハ何ノ為ソ
ソヤ

被告人トナリタルトキハソノ悪シキヲ誰ニ
モ知ルヘキナリ仍テ受人トナルモノアルヘカ
ラス法律上ニ於テ強テ之ヲ立テシムルヲ能
ハス

司法省

ソノ所以ハ受人ナケレハ裁判所へ出テ防クコ
能ハス

裁判所へ出ツルコト能ハサレハ欠席裁判トナル
更ニ八日ヲ過キテ故障ヲ述フルコト能ハス弥々
確定ノ裁判トナリテハ上告スルコトヲモ能ハス
夫レニテハ甚々氣ノ毒ナリトシテソノ被告人
タル時ハ受人ヲ立ツルコトヲ法律ヲ立テサリシ
ナリ

原告人ノトキハ保証人トナルモノナリトモ格
別害ハナシ

元来三十ヶ年ノハフレスフレクシヨニアリソノ
長キ間タニ受人ヲ頼ムトキハ自然ニ頼マル、
モノモアル可シソノ人ノ権利ニ害ナキヲナリ
仍テ受人ヲ立ツルヲト為シタリ

問 外國人原告トナリタルトキ受人ナクシテ
訴フルヲ得サル場合ニハ如何ス可キヤ

答 呼出状ヲ送達スル丈ケハ出未ルナレバ裁
判所へ出ツルヲ能ハス

佛人ノ原告トナリ外國人ノ被告ニ受人ナキト
キハソノ原告人ハ待タスシテ欠席裁判ト為シ

司法省

テ仕舞フナリ

外國人ノ原告トナリ呼出状ヲ送達スルトモ受
人ナキ時ハ三十ヶ年ノハフレスフレクシヨニヲ
延ヘ何時マテモソノ訴訟ノ権利ヲ失ハス此違
ヒアルユヘ此ノ如クニナシタリ

受人ハ害易ニ得ヘカラサルモノナリト云厄ソ
ノ人ノ正実ナルトナラハ受人ナキヲハアルヘ
カラス然ルニ受人ナキヲナラハ必ラス不正ノ
ト見ル可シ

被告人ニ道理アリテ此事ハ正シキト思フトキ

ニハ受人ヲ要セス

被告又ト六フモノハ必ラス惡シキト見サレラ
得ス然ラハ受人ヲ得ルヲ能ハサレハ必ラス欠
席裁判トナルハ實ニ憫然ナリト思フヨリ立テ
タル法ナリ

外國人ニ於テハ受人ヲ見出スヲ得サルトキ
ハ補ヒトナルヘキ為メニ保証金ヲ出シテ済ス
トナリ

原告人タルモノ佛國ニ不動産ヲ所持スルトキ
ハ受人ヲ立ツルニ及ハス

司法省

受人ヲ立ツルハ保証金ヲ出ストハ民事ニ関ス
ルコノミナリ商事ニハ絶テ無シ

第一ニハ佛國ニ住所ヲ定ムルコ

第二ニハ商事ニ関スル事件

此ニツニハ受人ヲ立ツルニ及ハストス

受人ノ代ハルヘキモノニツアリ

不動産ヲ所持スルトキ又保証金ヲ納メタルト
キ

之レハ受人ヲ立ツルニ及ハス

不動産アリ又金ヲ出シテ人ニ代ユルトキ其高

ヲ無限ニナスト又ハ不足ニスルトハナラス仍
テリノ訴事ニ付テ何程ノ高ト定ムルトハ裁判
所ニテ之レヲ定ム

第百六十七條

此條ハ三ツノ事ヲ含ム

第一ハ受人トナル可キモノ何程ノ金額マテハ
保証スルヲ定ムルト

第二ハ金ヲ官署ニ預ケルト

第三ハソノ金額ニ代ルヘキ不動産ヲ所持スル

ト

司法省

佛ニ住所ノ定リタルモノト商事ニ関スルモノ
トハ此所ニハ書テナシ

民法第十三條第十六條ニ出ツ

此二條ノ全文ヲ此所コノ法ニ出ス可シ

民法ノ十三條ノ皇帝ノ允許ヲ受ケテ佛國ニ住
居スル者ハ佛人ト看做スナリ

十六條ノ云フ所ハ商業ニ関スル云々トアリテ

商事ヲ云フナリ

以上ノ二ヶ條ヲ民法ニ入レソノ他ノトヲ訴訟
法ニ入ルハヨロシカラス